

市政改革で「保育ママ」へ一本化

ベビーセンター廃止なぜ？

「子供や親のためになるのか」「保育の質が落ちるのでは……」。——。公立保育所や民間の認可保育所に入れない「待機児」を受け入れ、産休明け保育、長時間・延長保育、途中入所などの多様な要求にもこたえ、無認可ながら、乳幼児を抱える父母にとって、なくてはならない存在となってきたベビーセンター（共同保育所、家庭保育所を含む）。港区では二カ所ありますが、「市政改革」のあおりでその補助金支給が来年度から廃止され、「保育ママ事業」へ移行せざるを得ない状況になり、関係者を不安がらせています。

「保育の質落ちる」「産休明けどうする」「不安つくる関係者

◆「市政改革」の一環として

多くの市民の反対を押し切って七月末に決定された大阪市の「市政改革プラン」。その中身の

大半は、「無料敬老パスを有料化する」「市PT

A協議会への運営補助金を廃止する」「私立学

校・幼稚園への維持運営補助を廃止する」「スポ

ーツセンターの管理運営を削減する」「老人福祉

センターを削減する」「子ども・子育てプラザを

削減する」「生涯・市民学習センターを削減する」

「老人憩いの家への運営助成を削減する」「食事サービス（ふれあい型）を削減する」「社会福祉協議会への交付金を削減する」「学校元氣アップへの補助を削減する」など、市民生活のあら



→産休明け保育などに対応しながら市の保育行政の谷間を埋めてきた「ベビーセンター」。「市政改革」による補助の廃止で「保育ママ事業」へ移行せざるを得なくなつた（写真は夕風のバンビ共同保育所）

ゆる分野の事業・施設・制度・サービスの廃止・削減・縮小ですが、ベビーセンターへの補助金廃止もその一つ。この決定によって、市内十カ所のベビーセンターは全て、「大阪市保育ママ事業（家庭的保育事業〔個人実施型〕）」へ移行せざるを得なくなったのです。

◆資格なくても参入できる

この「保育ママ事業」は、「仕事と子育ての両立を支援する」「保育の多様なニーズに対応する」「保育所持機児童の解消を図る」ことを目的に、大阪市が「少人数の低年齢児の保育」を民間の希望者に委託する制度として発足、今年五月に募集（定員二〇人）がかけられ、既に九月から住吉区など一部地域で実施されています。

そのポイントは、①保育士資格がなくても一定の条件（年齢など）を満たし一定の研修を受ければほぼ誰でも参入できる②生後六カ月以上～三歳未満の児童を二カ所当たり五人まで保育できる（地域事情により定員十人も可）③児童一人あたり月額一〇万四四〇〇円が市から基本委託料として支給される④保育スペースは一六・五平方メートル以上でなければならない（五人定

員の場合）⑤家賃は月額八万円までが市から支給される（五人定員の場合）⑥利用児童が一人であつても二人以上で保育しなければならないという点にあります。

◆熟練者も新参者も同じ土俵に

では、この制度の実施でどんな影響が親や子供や関係者に及ぶのでしょうか。区内二カ所のベビーセンターの一つ、バンビ共同保育所（夕風）の保母・松浦初美^{はつみ}さんは次のように話しています。

「これまでも補助金が減らされるなど、年々運営が厳しくなる中で耐えてきましたが、とうとうその補助金も廃止されることになりました。決まってしまった以上は仕方がないので、保育ママ事業への移行を準備しています。この制度の問題は色々ありますが、一番の問題は、六カ月未満の赤ちゃんを受け入れることが出来なくなることです。新しく参入される方の経験などを考えてのことだとは思いますが、私たちがのように保育士免許を持ち、あらゆる保育状況に対応しながら経験を重ねてきた者も、そうでない人も、同じ土俵でやりなさいと言われている

るように感じ、残念でなりませんし、結局は、産休明けに子供を預かってほしいというニーズを持ったお母さんが一番困ることになるでしょう。他に、この保育ママ事業の責任者には雇用者つまり経営者としての業務が求められるなど、保育には馴染まないものも感じます。こんなことが関係者への相談もなく決められたことが理解できません。今後は取り敢えず保育ママ事業に移行しながらも、その中で問題点の改善を求めていきたいと思っています」。

◆大きかったベビーセンターの役割

また、今回の制度変更を機に今年度限りで廃業を決めた人見ベビーセンター（磯路）の東條直美さん（六五）は次のように話しています。

「一九六二年に叔母の人見栄が始め、八八年に私が後を継ぎ、地域の皆様に支えられながら点し続けたベビーセンターの灯を消すのはとても辛いことです。これまでにも補助金削減などで苦しみながらも続けてきましたが、私自身が定年を迎えたこと、それに保育ママ事業に移行せざるを得なくなったことを考え、決断しました。こうした制度変更が次々となされるの

は、大阪市が経費削減のために保育ママ制度などで急場をしのぎながら、保育を全て民営化する方向で考えているからではないでしょうか。でも、ベビーセンターの役割は決して小さくはありませんでした。というのは、保育というのはただ安全に預かればいいというものではありません



→小規模を生かしたきめ細かな保育で多様な要求に应运えてきたベビーセンター
（写真は磯路の人見ベビーセンター）

ませんし、特に最近はお母さんが働いているからというだけでなく、お母さん自身がゆとりを持つためにというケースも多く、ニーズが多様化してきたからです。私たちは小規模であることを生かして、親自身のストレス発散や躰のサポートも含め、そうした要望にきめ細かく応えられるよう努めてきました。子供たちが狭いながらも温かい空間と時間を共にする中で、実の兄弟姉妹のような関係を築き上げ、認可保育所に進んだ時や、実際に弟や妹が出来た時にそうした経験が役立つ、と感謝されたこともあります。そうしたことが保育ママ制度でもできるのか、とても疑問であり心配です。願わくば、命を守り続けるという保育の大切な役割を本当に分かっている方が応募されることを祈っております。そして、本当の意味で『待機児ゼロ』が実現するまでベビーセンターは残してほしかった、というのが正直な気持ちです」。

◆民営化の流れの中で

こうした声に見られるように、今回の無認可保育の分野における「ベビーセンター廃止→保育ママ事業への一本化」という決定は、「待機児

解消」を掲げているとはいえ、既に決定した保

育基準引き下げや保育料値上げとも併せ、余りにも現場の実態や関係者の声を無視したものと

いわざるを得ません。その背景にはやはり、「財

政難」を口実に、あらゆる公的事业を民営化し

ようという、国を挙げての流れが見えます。

そして、その先頭を走る大阪市は、この保育

ママ事業という安上がりな制度を「待機児解消

へ一応取り組んでいますよ」というアリバイと

して、また保育所整備の不充分さを誠実に繕

うことをせず、そこから食み出た子供たちを受

け入れる「調整弁」として利用しながら、結局

は保育という本来「公」が全面的に担うべき

崇高な事業分野を、まるごと民間の自由競争と

弱肉強食の埒場へ投げ込む算段なのでしょう。

ですから私たちは今回の問題を、ひとり保育

分野に留まらず、あらゆる分野に共通の問題と

して、つまり「民営化」というのはええことなん

か「こんな流れは世のため人のため、子や孫の

ためになるんか」という大きな観点で捉える必

要があるのではないのでしょうか。

本紙コラム

あさやけ

目下、鼯といったちっこくを展開中です。な

んせ築五十年超の本造家屋。隙間も多いことか

ら害虫や害獣は入り放題。夏の蠅や蚊がいな

くなり、鼠もこのごろ見かけなくなったと思

つたら、とんだ大物が出入りしていたのです。

とはいえ、体長三十数センチ、暗褐色の体毛を持

ち、胴長で四肢の短いこの哺乳動物、なかなか

憎めない所があるのです▼少し前など、土間に

吊るしたジャガイモを狙って物陰に隠れてい

るのを見つかり、二〜三秒首を傾げてこちらを

窺った後、排水口へ飛び込みました。覗くと

顔を出したので至近距離でバチッと目が合い、

慌てて引つ込みましたが、何秒かして再び頭を

上げたので、またも目が合いました。その後は

まだ対面できていませんが、あの「目」が妙

に心に残っています。犬や猫ほどではないが、

鼠よりは知能が高いようで、何か「相通じる」

ものを感じたからです▼思えば「害虫」「害獣」

といつても、あくまで人間本位のネーミング。

同様に人間同士、国同士も「常識のない奴」怖

い国」などと罵り合っていますが、相手にと

つては実に不本意な見られ方かも。実際、宇宙

のビッグバン、聖書の天地創造、人類アフリカ

起源説など、科学や宗教のいずれを見ても、宇

宙や地球や人類の始まりは一つ。領土や経済や

環境の問題も、そういう根本的なところから解

決を唱える超弩級の政治家が出ないものでし

ようか▼ということで、スケールの小さな筆者

は身近な所から世界融和に貢献しようと妻に

進言しました。「あの鼯、もうええんと違つか」

「あかん、これ以上ジャガイモ齧られてたまる

か!」。どうも人間の方が通じ憎いようです。

代筆

～何でも書きます、まとめます～

- ★手紙・案内・報告・宣伝・司会などの文案
- ★自分史・社史・団体史などの聞き書き
- ★新聞・広報・書籍・会報などの取材・編集

港新聞・飯田編集事務所

TEL・FAX:06-6571-4636

Eメール:yamaemi@bridge.ocn.ne.jp

http://osaka-minatone.sakura.ne.jp/



防災など3部会新設

区政会議でまちづくり論議進む

「区民の意見を踏まえた区政運営を」と昨年
 発足した港区区政会議（武智虎義委員長）の取
 り組みが進んでいます。

◆「区政会議」とは

同会議は「区政や区の事業について意見を述
 べ、評価する」ことを目的に、昨年七月に発足。
 公募委員や団体推薦委員、区長推薦委員から成
 り、現在の委員数は四十六。任期は二年。専門
 部会として今年四月に「こども青少年部会」が
 設けられ、学校選択制や中学校給食について論
 議を重ねてきましたが、九月十四日には「防災」
 「防犯」「福祉」の三部会が新設され、それぞれ
 の論議が始まっています。

◆防災部会で活発な話し合い

このうち防災部会では十月三日、区役所で二
 回目の部会が持たれ、委員十二人（うち公募委
 員七人）と区役所の担当者らが出席、区独自の
 「地域防災計画」の年度内策定に向けて活発な

論議が交わされました。

港区役所の防災担当から示された昨年度の防
 災関連事業の報告（区民アンケートの結果、防
 災訓練の実施状況など）や今年度の重点課題の
 提案（津波避難施設の確保、津波避難マップの
 作成・配布、帰宅困難者対策、図上訓練指導者
 の育成、ジュニア防災リーダーの養成など）
 を軸に、主に次のようなやり取りがありました
 （↓の後は防災部会委員からの意見・提案、↓
 の後は区役所担当などからの回答）。

◆末端まで防災情報を

↓商業新聞を取っていない人が多いので、マ
 ップなどの防災情報は、新聞折り込みではなく
 町会ルートなどで末端まで伝わるようにしたら
 どうか↓検討する。区政だよりは「届いていな
 い」と連絡があれば郵送しているので申し出を
 ↓防災マップはもつとしつかりした紙に印刷
 してはどうか。もつとコンパクトにした方が活
 用しやすいのでは↓検討する。今回のマップは
 区政だより特集号として同じ紙質で発行した。
 今年度中に地域ごとの新版を配布する予定
 ↓防災マップなどを基本に、こまめな情報も

→港区独自の「地域防災計画」策定に向けて活

発な論議が交わされた港区区政会議・第2回

防災部会Ⅱ10月3日夜、港区役所内

適宜^{てきぎ}発信したらどうか↓検討したい

↓港区^{ひがし港区}の標高は「1メートル前後と低いにも拘^かわらず、防災マップに「二時避難所(公園)」とあると、みんな低い公園へ逃げてしまう。「津波の際は津波避難ビルへ」と注意書きを加えたらどうか

↓電信柱に「ここは標高何メートル」と表示があれば啓^{けい}発になるのでは

↓啓^{けい}発だけでなく組織も必要。区長をトップにした区の危機管理室を立ち上げるべき

◆避難ビル協定に疑問あり

↓ビル所有者・区長・連合町会長の三者による一時避難ビル協定で、建物が汚損^{おそん}された場合の損害賠償について、国のガイドラインでは市町村長の全額賠償が明記されているにもかかわらず、市の協定では区長と連合町会長の連帯義務となっており、ビル指定のネックともなっている。どう考えるか。また市内各区の協定はみな同じか↓市内の少なくとも湾岸四区は同じ協定内容だ。国のガイドラインがどうあれ、区独自で、今の三者協定という形で避難ビル指定を進め、昼夜間想定避難人口の一一〇割分まで確保^{けんぽ}していきたい。原状復帰義務^{げんじょうふき}の在り方につ

いては検討していきたい(区長)

◆港湾局職員公舎の廃止なせ

↓津波高潮発生時に防潮^{ぼうちようしほ}扉のスピーディな閉鎖を可能にするため、市議会決定を経て十三億円かけて築港二丁目に建設された港湾局職員公舎が、平成二十五年度末をめどに廃止・売却が計画されているのは納得できない。しかも平成二十一年の防災マップには避難ビルとして掲載されていたのに今年七月の防災マップには掲載されていない。朝潮橋駅前の交通局職員公舎は掲載されているのに、なぜか。次回以降に議論をお願いしたい

◆マンション対策は地域・行政連携で

↓うちのマンションでは避難マニュアルをリーフレットにしたり、マンション防災委員会的主催で独自の避難訓練を実施したりしている

↓うちの地域では「近所マップづくりや小学校での避難訓練など防災への関心が高まっているが、若い人の担^{にな}い手を作る必要がある

↓地域との関係が薄いマンション住民の避難対策については、地域任せでなく行政が前面に出て働きかけることも必要ではないか↓地域と

行政が連携して一緒に働きかけること、加えてマンション内でのコミュニケーションが重要

◆津波火災やコンテナへの対策も

また、オブザーバーとして参加した官公署の担当者からは「津波火災については小さいうちに消すしかない」(港消防署・水上消防署)「まず逃げろが基本。日常の意識づくり、家庭での話し合い、住民と役所の話し合いが重要。避難ルートの確認も大切」(港警察署・水上警察署)「南港へ抜けるなど大きな避難ルートの確保に努めている」(囲いの中で用便ができる仮設トイレを八幡屋公園と市岡公園に設置している)「下水管の耐震化にも取り組んでいる」(市建設局市岡工営所)「防潮扉については職員が三十分で集まり閉鎖する訓練をしている」(コンテナについては津波で流れ出さないよう業者に啓発・指導していく)「(市港湾局)などの補足報告・意見がありました。

◆区独自のプラン策定に向けて

最後に田端尚伸^{たばたひさのぶ}・港区長が「三・一一の記憶^{のうり}が脳裏にあるうちにと取り組みを進めているが、積極的な意見交換に感服した。区独自の防災プ

防災

防災策 一層の充実を

港区震災対策協議会が区に要望

ラン作りという同じ方向を向いて、これだけのメンバーが一体になっていることを力強く思う。厳しい市財政の中でも、一時避難ビルの昼夜間想定避難人口比一一〇割分の確保などに向けて取り組んでいきたい」と決意を述べました。

なお、同部会では今後も論議を重ね、三月中旬には港区独自の「地域防災計画」をまとめて区政会議に報告することになっています。

◆「論議の深まりを感じる」

会議を終えた防災部会委員の一人、前川美智子さん（南市岡地域ネットワーク委員会保健・医療・福祉ネットワーク推進員）は「二回目ですが、論議が深まってきたと感じています。これから地域で図上訓練などの実践を重ねながら論議に参加していきたいと思っています」。

また森田敏一さん（公募委員、市岡元町）は「実践を踏まえた皆さんの発言や意識の高さに感じました。あまり防災活動に参加してこなかった者として、論議にしっかりと参加するため、またこれまでやられていないことを提案するためにも、まず過去の防災活動の経過や到達点を知りたいと思っています」と話していました。



→「地震・津波対策の一層の充実を」と要望が相次いだ港区震災対策協議会と港区役所の話し合い。9月26日、港区役所

「東海・東南海・南海地震が起きたら港区はどんな被害を受けるのか」「津波避難ビルを増やすなど防災対策の一層の充実を」。住民目線で防災対策をチェックしよう」と五月に発足した「港区震災対策協議会」（西原みゆき代表）が九月二十六日、港区役所内で区役所担当者と初の話し合いを持ちました。同会員約二十人が参加。

これに先立って同会が九月三日に提出していた「質問要望書」に区役所から前日回答が示され、その内容を踏まえて話し合いは進められました。主に次のようなやり取りがありました。（↓の後は会員発言、↓の後は区役所回答。）

◆防災マップに疑問あり

↓防災マップ（七月十日現在）に津波避難ビルとして区役所庁舎が入っていないことに区民は失望している↓災害時に必要な指示を行なう防災拠点であり避難ビルの位置づけではないが、緊急やむを得ない状況では一定スペースでの対応を考えている↓地下鉄などの駅舎もマップに入っていない↓鉄道高架部分への避難については関西広域連合で協議しているが、緊急やむを得ない場合は対応することになるだろう↓そう

いうことを住民が知っていることが大事。公

に表明すべきではないか↓一時避難施設として位置づけていないので公表は検討していない

↓防災マップに「津波避難ビル」として記載されているながら建物自体に標示がない所がある。住民が目で見分けるようにしてほしい↓ビル所有者の様々な意向を尊重して協定を結んだ経緯があるのでご理解願いたい↓受け入れるオーナーはいるはず。先行例をつくってほしい

◆避難ビル協定に疑問あり

↓津波避難ビルについて、国のガイドラインでは建物の使用時に損壊などがあつた場合の役所の賠償義務を明記している。平松市長時代に



→協議の中で紹介された「津波避難

ビル」の標

は市の協定もそれに向けて一歩前進したが、連合町会長にまで賠償責任を負わせているのは納得できない。また「賠償に努める」という努力規定は国のガイドラインを骨抜きし、歪めるものだ。国のガイドラインと逐条的に照らし合わせて改善を↓国のガイドラインは津波が比較的短時間で到達する地域を対象にしているので、現在の大阪市の見解では、大阪市域には当てはまらないと考える

◆避難ビルへの支援を

↓津波避難ビルへの具体的な支援措置（ペットボトルを置くなど）がないが↓一時避難という位置づけなので、どの建物ともそういう話はない。ただ一時避難から撤退まで一定期間を要することも想定されるので、最低限の備蓄については検討したい

↓いざ逃げるとなると（避難ビルに指定されているかどうかを問わず）目につくのは会社やマンション。そんなマンションに対する（備蓄等での）支援を↓（避難ビルに指定されていないマンションの外から）一般の人が逃げて来ることを想定した備蓄は今のところ考えていない

↓避難ビル協定までは行かなくても、避難や備蓄などに協力だけでもしてもらえようお願いできないのか↓外からの避難を受け入れるのは難しいが、低層階の住民が上層階へ避難することなどについては対策を考えていきたい

◆避難訓練の改善を

↓津波避難ビルと収容避難所（学校）とを組み合わせた避難訓練はできないのか↓重視しているが、訓練日はほとんど休日なので、避難ビルは利用できていない。が、ビルの前に集まる訓練、避難ビルや収容避難所を念頭に置いた図上訓練などはしている↓パチンコ店やホテルなどは日曜日も開いている。オーナーの認識を変えていくよう区役所が働きかけを。防災は相互協力の事業なのだから、この点でも先行例を↓地域主導で検討していきたい

◆港湾局公舎の売却は撤回を

↓津波来襲時に防潮扉を閉じる役目を持った職員の宿舎である港湾局公舎（築港二丁目）を廃止・売却する計画は納得できない。また今回の防災マップ（七月十日現在）への掲載もされていない。市議会で承認され十三億円かけて

建設された市民の財産。しかも（今回の回答では）「新耐震基準が出た昭和五十六年六月以前に竣工した」、つまり耐震基準が満たされていないと誤認し、それをさらに民間へ売却しようというのは二重の過ちではないか↓公舎の竣工年月の認識については訂正し、お詫びの上、調査して整合性ある回答を出したい

◆防災リーダーの拡充を

↓港区に地域防災リーダーは何人いるのか↓
今年四月一日現在で三二六名。各町会から二名選出を基本にした推薦名簿による↓少ないのではない。信頼できるリーダーがどこにもいる状況を作り出すため、認定ブームを利用した認定制度の確立など抜本的な対策を↓災害時のマンパワーについては中学生のジュニア防災リーダーなど幅広い人材発掘を進めていきたい

◆独居・高齢者・障害者対策を

↓町会に入っていない独り暮らし高齢者などには情報も届かず誘導もされない。まず実態を掴むことが大事。数などは掴んでいるのか↓
個人情報扱いになることもあり、共助として町会単位での把握をお願いしている

↓障害者や高齢者は、エレベーターが止まる、電気が止まる、バリアフリーでない所へどう移動するかなど不安が一杯だ↓避難訓練では障害者や高齢者などの要援護者を想定してやってもらっている、エレベーター停止などの場合は、運んでもらうなどの助け合いを基本をお願いしたい。そうした地域の共助体制が進むよう区役所も連携して取り組みを進めていく

↓四十人の要介護者を抱えている。うちは四階建だが、区の大半の要介護者（二万人を下らないだろう）は一階なので犠牲になりやすい。そういう人たちの避難誘導には人海戦術が必要ではないか。避難マニュアルがないのも心配だ↓各町会の班長さんには要介護者の把握をお願いし、要介護者を想定した訓練もしてもらっているが、そうした共助体制の一層の充実へ区役所も連携して取り組みたい。災害時の医療対策などについては港区医師会と協議に入りたい

◆防災予算の拡充を

↓区の防災予算は増えているのか↓増えており、今後増やす↓どこを増やすのか↓一時避難ビル協定の取り組みや避難マップ作成、防災

リーダー養成などに使っており、こういう自助・共助の分野を重点的に増やしていく

↓区内の小中高校の耐震化は済んでいるのか↓済んでいる。保育所は詳細を調べる

◆不安な八幡屋・港晴地区

↓八幡屋の三十間堀近くに住んでいるが、堤防が古くて壊れそう、水面が地面より高いので不安。そんな地域で八幡屋小へ逃げた場合、物資の備蓄はどの程度されているのか↓水五百リットル千八百本、毛布三百枚、ブランケット五十枚、ラジオ二十台、懐中電灯二十本、その他、薬品、簡易トイレ等々↓避難対象者は約五千人。不足ではないか↓備蓄スペースの制約はあるが、その中でも物資を増やすと共に、市の備蓄体制の中で円滑な補充に努めたい

↓八幡屋・港晴地区は四五歳が六十五歳以上。皆に聞こえるアナウンスを↓市の周報スピーカーは半径三百メートルに聞こえるが、密閉型マンションもあり、情報伝達には一定の限界がある。情報収集は近所のコミュニケーションやラジオ・テレビが基本だが、行政としてインターネットやメール配信サービスの拡充に取り組んでいる

◆建設的な協議ができた

車椅子で参加した平富美男さん（五五）（八幡屋）は「私は先天的に足が麻痺しています。地震や津波の時、エレベーターが止まる、電気が止まる、バリアフリーでない所へどうやって移動するかーなど不安が一杯です。こんな話し合いはとても大切。これからも続けてほしい」。

同会事務局長の山田博之さん（七〇）（築港）

は「建設的な協議ができ、よかった。津波避難建物が増えたことは区役所の努力の賜物と評価したい。しかし、九月三日に質問書を出し、

昨日に回答とは慌ただしかった。また、今日は区長に出席してもらい、決意を聞かせてほしいかった。防災は区政の最重点分野。さらに前向きな姿勢を期待する。防災対策では特に、港灣局公舎廃止計画を撤回すること、津波避難ビル協定を国のガイドラインに則して改めることを強く求めている」。

また区役所担当者は「市では団体との協議には課長級職員への対応を基本とするなどの指針があり、これからも、その中で精一杯の対応に努めていきたい」と話していました。

社会問題

「原発ゼロ」港区でも

医療関係者や女性が声上げる



全国的なうねりとなっている「原発反対」の声が港区でも上がりました。九月二十日午後、天保山公園で開催された「原発ゼロ」集会には区内各地から医療関係者や高齢者、女性を中心に約百人が参加しました。原発再稼働に反対する個人有志と大阪きづがわ医療福祉生活協同組合が呼びかけ。

◆「安全宣言おかし」

会場では「原発反対」を願う寄せ書きが募られ、東日本大震災被災地の写真が展示される中、主催者を代表してみなと生協診療所（磯路）の倉沢高志所長が「安全であるはずがない原発に安全宣言をするのはおかしい！」と挨拶。「原発ゼロで世界平和を！」「原発いらない！地球をきれいに！」「原発ゼロは国民の声！」「原発絶対反対！フクシマを忘れるな！」など参加者からのメッセージが読み上げられました。

また区内の女性グループが「原発いらない！」

「原子力NO！ 自然エネルギーNOW！」などとアピール。東日本大震災の被災地へ赴いた青年三人が現地の様子などを報告しました。

◆がれき受け入れ反対メンバーも

→「原発ゼロ」をアピールする集会参加者
〓 9月20日、天保山公園

震災がれき受け入れに反対するグループのメンバー数人も駆け付け、「東日本大震災により生じた廃棄物の広域処理に関する住民説明会」（八月三十日）の様子（本紙前号で既報）などを報告、「震災がれきについて」一緒に勉強していきたい」と呼びかけました。また「みんなが平和で安全に暮らせるように」との願いを込めてヴァイオリン演奏も行なわれました。

最後に参加者全員がそれぞれのメッセージや風船を掲げて「ゼロ」の形に並び、「原発ゼロ！」をコール。このあと女性グループが「原発いらない！」などとシュプレヒコールを上げながら会場周辺をデモ行進しました。

◆「震災がれきも勉強したい」

参加した石本愛子さん（七二）（築港在住）は「危険な原発を一日も早くゼロにしてほしい」との思いで参加しました。福島県以外のがれきについては難しい面もありますが、どう処理すればいいのか、これからしっかりと勉強していきたい」と話していました。

交通

住民や病院利用者のため

大阪港駅東口にE.V.を

「築港の会」が要求続ける

「大阪港駅東口にエレベーターを」と築港地区の住民グループが要求運動を続けています。



→「近隣住民や船員保険病院利用者の利用と安全のためエレベーターの設置を」と要求運動が続けられている地下鉄大阪港駅東出口（船員保険病院側）

このグループは「地下鉄大阪港駅の東改札付近（大阪船員保険病院側）にエレベーターの設置を求める築港の会」（森俊隆代表）で、昨年八月に要望書と署名簿を大阪市交通局長に提出したのに続き、九月十四日、新たな要望書と署名簿（千八十二筆）を同局長に提出しました。

◆近隣住民の立場反映されず

この要望書では、海遊館側のエレベーター（ワイルド目）に続く二ルート目の整備に国や市から補助を受けるためには「地下鉄同士や他の鉄道との乗り換え経路の整備など」と同等の必要性が求められる」と同局側が今回新たに持ち出した「補助基準」は、昨年十月の市会交通水道委員会における新谷前交通局長の見解表明と異なる」と指摘した上で、「いったい何処の駅の話をしているのか。交通局は近隣住民や病院利用者の立場を理解すべきだ」と述べています。

◆周辺の高齢者人口は突出

さらに、直近の国勢調査結果（同駅周辺の六十五歳以上人口は、エレベーターがある一号出入口付近の百三十五人にに対し、エレベーターが無い二・六号出入口付近は十二倍の千五百九

十三人である―などを示し、「この事実を熟知しながら整備を後回しにするのは人権侵害以外の何ものでもない」「人権都市大阪の看板に泥を塗るもの」と厳しく弾劾。加えて、田端尚伸区長が施政方針(案)で掲げる「大阪港駅南部地域の活性化」にも二ルート目の整備は必要だと指摘しています。その上で要望書は、近隣住民や病院利用者の声を直接伝える場として「協議の場」を早急に設定することを求めています。

◆バリアフリー法も踏まえ

この問題については、海遊館側にエレベーターが設置された一九九四年十二月以来、エレベーターの無い船員保険病院側の利用者や高齢者・障害者から「四十数段ある階段の昇り降りが辛い」「車いす利用者のことを考えて」などの声が繰り返し上がっています。厳しい財政状況とはいえ、市予算には「カジノ誘致」「道頓堀プール」など有害無益な使途も目立つ中、交通バリアフリー法の趣旨(高齢者・身体障害者などの公共交通機関を利用した移動の利便性・安全性を促進する)をも踏まえた誠実で建設的な対応が、大阪市には求められています。

催しガイド

■あゆみ福祉バザー 十一月三日(土・祝) 十

〜十五時(雨天なら四日)、あゆみ作業所(築港三・一〇・一八、天保山公園南向かい)で。物品提供などの支援歓迎。同作業所は主に知的障害者が通所する定員二十人の指定生活介護事業所。NPO法人大阪港あゆみ福祉会が運営。「障害のある人たちが住み慣れた港区で安心して働き、暮らし、社会参加できるサポート施設」として活動。TEL・FAX六五七二・〇七一四。

■港合同「交流秋まつり」 十月二十八日(日)

十〜十五時頃、田中機械(南市岡三・六・二六)構内で。労働運動の高揚をめざし、労働者と地域住民が集う恒例イベント。三十四回目。歌や踊り、争議支援のバザーや格安の味自慢屋台、豪華景品が当たるビンゴゲームや飛び入りできるカラオケ大会など。入場無料。主催は全国金属機械労働組合港合同と港合同もちつき実行委員会。共催は特定非営利活動法人NPOみなと。☎六五八三・四八五八港合同。

■ワークみなと「東北食品市」 東日本大震災

で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所

が、震災前の地元産材料、宮城県産材料、昔ながらの製法で作った体と心にやさしい豆腐・豆乳・青豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心両面で支援。毎月第二・第四火曜十五時半から(売切次第終了)▽ワークみなとは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所(夕風二・六・三、TEL・FAX六五七一・七五一一)。

■健康まつり 十月二十八日(日)十〜十四時ごろ

磯路中央公園で。区民の健康づくりを目的に毎秋開催され二十六回目。健康チェック(血圧・体脂肪測定など) Ⅱ写真は昨年の様子Ⅱや舞台発表(築港中吹奏楽部の演奏など)、バザーや



屋台が一杯。豪華景品が当たる抽選会も。主催は大阪きづがわ医療福祉生活協同組合などと・にしエリア健康まつり実行委員会（磯路三・三四、☎六五七一〇六〇六）。

■港のつどい

「広げよう仲間の輪を！子ども笑顔あふれる学校園を！守ろう憲法九条と平和を！」を合言葉に港・大正・西区の幼・小・中教職員や地域の人々が交流する毎秋恒例イベント。四十三回目。十月十九日（金）十八時～二十時、港区民センターで。入場無料。今回は「いじめ自殺」「学校選択制」「市政改革と地域活動」など今日的・大阪的な問題がテーマ。職場・地域団体によるフリーマーケットやバザーも。舞台では港区出身のシンガーソングライター

代田幸子さん

が柔らかな旋律と透き通った歌声で爽やかなピアノの弾き語りを披露。代田さんは「花」でヤマハティーンズ・ミュージックフェスティバル全国大会奨励賞受賞。「素敵な親指」は引越センターのTVCMソングに採用され全国ネットで流れた。「おばあちゃんの唄」は日本TV「誰も知らない泣ける歌」で放送され絶賛。他に「満員電車」「おやすみ大統領」な

ど。現在、子育てしながらライブ活動中。主催は大阪市学校園教職員組合港支部などから成る実行委員会（☎六五八一・四五四四）。

■自閉症児を応援する気エネルギーワーク

プロの気エネルギー療法士が「自閉症児の体や心が少しでも楽になれば」と続けている。「気楽な参加」を呼びかけ。参加費無料。要予約。毎月第二・第四土曜（十月は二十七日、十一月は二十四日）十五～十八時に松井整骨院内で。弁天四・一〇・二六、☎六五七二・一一六五。

■ムチ打ち（首・腰）無料相談会

交通事故で

ムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談会。十月二十八日（日）十～十八時に行政書士のむら事務所（築港三・七一・六〇八）で。一人約一時間。事前予約制（電話かEメールで）。

「どうしたら正当な補償が得られるかをアドバイスします」「事故後、早めの相談が良い結果につながります」（同事務所・野村光恵さん）。Eメール：info@jiko110.com、ra.com、TEL：六五七六・六〇七八、FAX：六五七六・六〇七九。

■緑の地球ネットワーク（GEN）

中国山西省

大同市の黄土高原で一九九二年から緑化協力続ける認定特定非営利活動法人。地球環境のため国境を越えて力を合わせている。次のような協力方法がある。①会員になる②会報を購読する③カンパする④絵はがき『黄土高原の花』を購入する⑤ビデオ『よみがえる森』を購入する⑥古切手・書き損じはがき等を送る⑦ボランティアになる⑧黄土高原スタディツアーに参加する⑨GEN自然と親しむ会に参加する⑩十月二十八日（日）十時～十五時に淀川河川公園背割堤地区で「無煙炭化器で炭焼き体験」。京阪電鉄八幡市駅前に十時集合。参加費五百円。申込は十月二十四日までにGEN事務所へ。雨天中止⑩GEN二十周年シンポジウム『緑をまもる、命をつむぐ』に参加する⑪十一月十七日（土）十三時半～十六時半にエルおおさか（地下鉄「天満橋」）で。参加費千円（学生五百円）。パネリストは只木良也さん（自然大学学長）ら▽いずれも詳細はGENの事務所（市岡一・四・二四・五階、☎六五七六・六一八一）へ。

報酬あればヘルパー利用できないのか

障害者自立支援法の矛盾を是正したい

(区内・男性M)

私は脳性マヒによる障害者で、「障害者自立支援法」の介護給付を受け、一人暮らしをしています。障害は重度で、食事、排泄、車イスでの外出、いずれにもヘルパーによる支援が必要です。同じように障害を持つ人の相談を受ける仕事に就くため「相談支援専門員」や介護保険の「ケアマネ」の資格をとり、パート職員（といっても月二回程度で報酬は三千円程度）をしています。ところが、僅かながらも「報酬がある」ということで、相談者の家へ行くための私自身の外出に「ヘルパーの利用を認めない」と行政から言われました。事実上活動できません。報酬を得ることより社会貢献という意識が強く、生きがいになっっていました。残念です。余暇外出でのヘルパー利用は自由なのに、それに仕事そのものを一緒に手伝う訳ではなく移動だけなのに、矛盾していると思います。ぜひ是正してほしいと願っていますが、皆さんはどう思われますか？

日本は全世界に平和訴えを

岡崎さん「戦争体験」に思っ

(池島1・勝部泰臣79歳)

「わたしは卑怯な兵隊でした、だから生きのびた」(ダイエー創始者の故中内功氏)「敵が攻めて来て逃げ場を失い、肥だめの中に身を沈めた」(三國連太郎氏)。二人に共通するところは――「靖国には恐ろしくて、そして申し訳なくて参拝する気にならない」である。二回に及んだ岡崎和子先生(私の詩吟の師である)の少女期の悲惨な体験(前号まで「戦争体験」欄に掲載)。とにかく「戦争」というものは人格も変え、何もかも、人間本来の美点すらも破壊してしまうと承知せざるを得ない。常時どこかでドンパチやつてる米国。その傘の下で安保条約の名のもとに沖縄や岩国の基地周辺の住民の安全が脅かされている。六十七年前の原爆被災国として日本及び日本人はもつと全世界に訴えんのかい！ どの政党が権力を手にしようと、安保がある限り「アメリカさんの言いなり」だろうが。岡崎先生ほど悲惨ではないが、今の若い人

たちの爺さん婆さん、みな何らかの心の被害(目に見えないけど、あとあとしつこく害を及ぼすのです)を受けているんだ。やたら血の気の多い識者があとあとのことを考えずに愚かなる発言をして争いの火種をまき散らす。こういう奴に限って、握手したらそのらの女の人より柔い手をしているもんなア。志ある若い人に会う度に、心の中で「頑張ってくれよな」と儂い？期待を抱いている老人。

生活保護は国民財産 正しく運用を

(波除・60代女性)

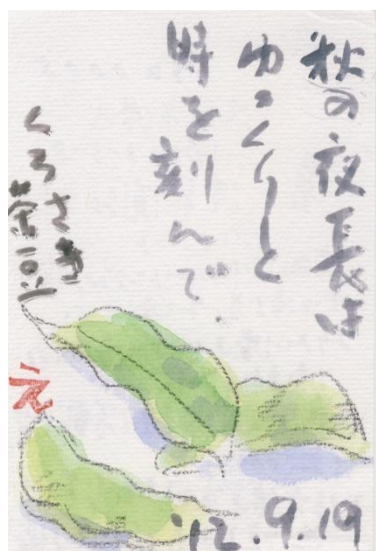
「生活保護は贅沢か？」(前号トップ)を興味深く読ませて頂きました。書かれているKさん家族の例は、本当にこの制度が、真面目に働いているのに食べていけない国民のために役立っていると感じさせ、良かったと思います。でも、そうではない例も知っていますので、この問題は本当に難しいと改めて感じました。結局は、最後に書かれているように、戦後勝ち取った国民財産としての生活保護制度を、政府も国民も、きつちりと正しく運用し、守っていく

しかないと思います。実際、この制度がなかったら、どれだけの人が生活を破壊され、命や健康を失うことになるでしょう。毎号、考えさせる問題提起をして下さり、勉強になっています。

震災がれき問題はよく分からない

(築港・50代女性)

「支援は人の受け入れで」と題し、震災がれき受け入れに反対する市民の行動を取り上げた記事(前号6頁)を読み、「福島のがれきならともかく、岩手のがれきなら受け入れてあげた方



→読者の作品から辻悦子さん

(市岡元町3)の絵手紙

がよいのでは」と考えていただけに、ちょっと考えさせられました。受け入れを進める行政と反対する市民の両方の言い分が詳しく紹介されていたが、それでも「よく分からない」というのが正直なところです。でも考える材料になったことには感謝しています。

盲ろう者の料理挑戦にびっくり感動

(三先・60代女性)

「盲ろう者が料理楽しむ」(前号12頁)にびっくりしました。あのヘレンケラーと同じ、目も耳も不自由な人たちが、どうして米や野菜や肉や魚などの材料を処理し、ガスや電気や火を適切に扱うことが出来たのでしょうか。介助の力の力が大きかったことは想像できますが、それでもこういう分野に挑戦しようという、盲ろうの方たちの意欲に敬服し、感動さえ覚えました。また「手と手とハウス」という生活介護事業所が身近な港区内にあることも初めて知り、これからも障害に負けず、色々なことに頑張っているという気持ちだが、より強くなりました。

みなと温泉カンパックに万歳

(弁天・40代男性)

「みなと温泉カンパック」(前号14頁)に思わず万歳しました。島根県から大阪に就職し、マンションに一人暮らし。風呂はありませんが、週一度は銭湯せんとうを利用しています。みなと温泉が休みの間は他の銭湯へ行き、それぞれに個性があることが分かり、みなと温泉の良さも再認識しました。交流の場にもなっている銭湯を、特に行政が支えてあげてほしいと思いました。

子供喜劇に感じた 完成させる喜び

(磯路2・薩地照子 かげちてるこ)

子供喜劇(前号23頁)、とても楽しそうでした。観たかったです。大人でも子供でも、集中して何かを完成させるということは充実感があっていいものです。完成させたものを大勢の人の前で演じ、拍手をもらって子供たちは「やったあ、最高!」と思ったでしょうね。こんなに素晴らしい企画を立てた「笑天下」の皆様、また何か催しをやって下さい。これからも子供たちのいろいろな表情や姿を見たいものです。

暮らしを支える下水道

市岡処理場を公開、賑わう



→「生活を支える下水道の役割がよく分かった」と好評だった市岡下水処理場一般公開（写真は沈澱池を見学する参加者）

「市区民に親しまれる施設に」と市岡下水処理場（市岡）の一般公開が九月八日に行なわれました。毎年この時期に実施されている催しで、十九回目。朝十時から夕方四時までに約二百人が来場。施設見学などを通じて、普段は意識されない施設の重要な役割を学びました。

◆バクテリアが汚れを食べる

メインの「施設見学」は数回行なわれ、そのうちの一回に同行しました。下水道を通つて処理場内に流れ込んだ汚水や雨水が、①沈砂池②ポンプ棟③沈澱池④反応槽⑤沈澄池⑥消毒室などを経てきれいになり、尻無川へ放流される仕組みを、職員が処理順に引率しながら説明してくれました。

このうち沈澱池では「味噌汁をしばらく置いておくと上が澄んでくると同じ原理です」、反応槽では「バクテリアが汚れをパクパク食べてくれ、自然に任せたら五〜六日かかるところを約八時間できれいにできます」などの説明があり、沈澄池では深さ二メートルの底にミッキー・マウスのイラストがはつきり見えると驚きの声。最後の消毒室では「次亜塩素酸ソーダで大腸菌な

どを消毒してから放流します」の説明に見学者が大きく頷いていました。

◆大雨の時にも活躍

また、大雨の時に雨水を尻無川へ排水して浸水を防ぐ役目を果たす第二ポンプ棟では、「ここには五台のポンプがあり、全て稼働すると二時間に二十五トンの七杯分の雨水を排出でき、



→一般公開では色々な企画が参加者を楽しませた（右上は第2ポンプ棟見学、右下は高圧洗浄車実演、左上は紙芝居、左下は抽水所模型）



一時間に五十〜六十ミリの雨量なら大丈夫です」などの説明があり、小学一年生男児が勧められてポンプスイッチを押すと、ディーゼルエンジンの轟音が棟内に響き渡りました。このほか会場には、高圧洗浄車の実演▽下水管内部の実況中継▽顕微鏡での微生物観察▽動く抽水所ジオリマ▽下水道の仕組みや歴史が学べるDVD上映▽下水道を汚す怪獣とマンホールマンの戦いを描いたオリジナル紙芝居などのコーナーが設けられ、家族づれなどが楽しんでいました。

◆感謝の気持ちが

井上ゆうかさん(市岡)は陽瑠君(五歳)と璃登君(三歳)を連れて初めての来場。「マンホールマンの紙芝居はメチャ面白かったです。洗剤や油、マヨネーズ、デミグラスソースなどが下水環境を悪くすることが分かり、それらの使い方や流し方に気を付けようと思いました。この施設には污水处理だけでなく浸水を防ぐ役割もあることが分かり、改めて感謝の気持ちが湧き上がりました」と話していました。

福祉

長年の貢献お疲れ様

敬老の日 各地区で祝賀会



→地域挙げてのもてなしが温かかった築港地区敬老大会(写真は舞台上に拍手を送る参加者)

「敬老の日」の九月十七日を中心に区内各地域で敬老の催しが行なわれました。区内最高齢(一〇五歳)の田中在住女性を筆頭に、港区全体で七十歳以上の一三二〇九人(昨年より四九七人増)港区地域振興会各連合女性部調べが長寿を祝福され、長年の社会貢献に敬意を表されました。

●築港では70歳以上が1020人

このうち十六日に築港小学校で行なわれた築港地区社会福祉協議会主催の「築港地区敬老大会」には四七〇人(男一八五人、女二八五人)が参加しました。

式典では玉岡宏之・同地区民生委員長が司会を担当。今村末吉・築港地区社会福祉協議会会長が挨拶に立ち、同地区の七十歳以上が昨年より百人以上増えて一〇二〇人(男四二九人、女五九一人)になったことを報告。「東日本大震災で、一人ひとりが手を繋ぐことの大切さ、生きがいを持てる社会づくりの大切さがクロージアップされた。長寿といっても、健康で楽しい日々が長く続くことこそ大切。これからも生き生きした毎日を送られるように」と呼びかけました。

続いて金婚夫婦九組には築港女性会・南照子会長から、老人会代表には今村会長からそれぞれ記念品が贈られました。また司会者が「築港地区には百歳一人を筆頭に九十歳以上が四十二人いる」ことを報告しました。

●築港小児童の作文に拍手

築港小学校の児童代表からは作文がプレゼントされました。このうち一年一組の石山愛菜さんは「私はドッジボールが好きです。ピアノも習っています。おじいさん・おばあさんはどん



→高齢者に贈る作文を読み上げる築港小1年生の石山愛菜さん(左)と呉本琉妃さん(右)

なことがたのしみですか。いつまでもお元気でいてください」、同じく一年一組の呉本琉妃さんは「いつも近所の道をきれいにしてくださいってありがとうございます。集団登校の時に声をかけてくださってありがとうございます。お花に水をやってくださいありがとうございます。きれいなお花を見るときうれしくなります」と心を込めた声でしっかりと読み上げ、大きな拍手を浴びました。

最後に高齢者を代表して築友会・岡本百合子会長が「あらゆることに興味と関心を持って、地域の皆さまと楽しく健康に過ごしていきたい」と謝辞を述べ、式典を締めくくりました。

●心づくしの出し物が次々

演芸の部では地域の人々の心づくしの出し物が次々と登場。築港保育園園児の『さんぽ』などの歌には「かわいいね」、少年少女ダンスグループのヒップホップダンスには「動きがすごいね」、山口薫さんの演歌『浪花節だよ人生は』には「やっぱり上手やわ」、築港地域ネットワーク委員会による歌体操のメロディ(♪)とんとんからりと隣組」には「懐かしいね」、

岩田副美さんと福西邦子さんの踊り『まんまるワルツ』には「よかったよ」、築港小生涯学習ルームによる沖縄民謡メドレーには「気分が上がるわ」などの声上がり、最後は「待ってました前川さん」の掛け声と共に登場した前川輝子さんが『瞼の母』の熱唱で締めくくりました。



→元気で可愛い合唱に盛大な拍手が送られた築港保育園園児の舞台

「心づくしの出し物が続いた演芸の部（上は岩田副美さんと福西邦子さんの「まんまるワルト」、下は築港小生涯学習ルームの沖縄民踊）」



拍手と笑いが絶えない中、駆け付けた田端尚伸・港区長が祝意を述べ、築港地区社会福祉協議会・南照子副会長による「うれしいひとときを皆さんと共に過ごせ、大変喜んでいきます」との閉会の言葉で敬老大会は締めくくられました。

●「平和が一番」と金婚夫婦

参加者のうち金婚祝いを受けた村上重俊さん（八三・仁子さん（七三）夫妻に訊きました。重俊さんは鹿児島県に生まれ、中学時代に学徒動員を受けて川崎航空で兵器生産に従事する中で終戦。戦後は関西電力の原子力発電所のポンプ類などの産業機械組み立ての仕事に携わり、定年まで働きました。「機械など何もかもが

破壊されて仕事もできず、食べる物もなかった終戦直後の混乱期が一番苦しかった。しかし、学徒動員で厳しく叩きこまれた技術は戦後とても役立ちました。今、日本は中国や韓国と領土問題で大変なことになっていますが、決して争い事にならないよう、よく話し合い、しっかりと外交をやって頂きたい。国と国とが平和で仲良く付き合うこと。戦争を経験した者として一番の願いです」。仁子さんは「五十年の結婚生活で一番嬉しかったのは子供が生まれた時。三人それぞれに喜びがありました」と話していました。

●温かさと誠実さ

全体を通じて、会場では築港地区社会福祉協議会の女性たちが受付や来場者の世話をする光景が温かく、舞台袖で築港校下青少年福祉委員会の男性らが進行や音響に汗を流す姿からは、若い世代の高齢者への敬意が窺えました。また閉会まで席を立つ姿はほとんど見られず、戦後日本を築いてきた高齢者への地域挙げてのもてなしの温かさと共に、参加した高齢者の側の誠実な姿勢も強く感じられた催しでした。

環境

自転車放置あかんよ

サイクルサポーターが活躍



→ 放置自転車の整理や啓発を行なうサイクルサポーター 9月26日、波除地区で

「市民協働で放置自転車のない街に」。大阪府が進める放置自転車対策に市民がボランティアで協力する「大阪府放置自転車等啓発指導員制度（愛称：サイクルサポーター）」が港区でも進展しています。九月二十六日には、この制度に応募し、登録された区民が波除地区で啓発活動を行いました。

参加したのは田中一丁目東町会（木村良雄会長）の男性二人と女性二人。町会として六人がグループ登録し、この日が「サイクルサポーター証」を携帯しての初活動でした。

◆啓発や移動・整理

朝九時半に波除公園前に集合し、揃いの黄色い帽子・腕章・ベストを身に着けた四人は、大阪府建設局や港区役所の職員、港警察署の署員やパトカーと共に周辺地域を巡回。①不要不急の自転車利用を控えることや駐輪場の利用を自転車利用者に呼びかける②放置自転車に啓発チラシや絵符（えふ）を取り付ける③公道・点字ブロック・横断歩道などの上に自転車を止めないよう呼びかける④公道・点字ブロック・横断歩道などの上に放置された自転車を移動・整理する――

などの活動を小一時間かけて行ないました。

◆無理せずコツコツ

活動を終えた木村会長（六一）や向井勲代表（六八）らは「初めて活動して大体の要領が分かった」（二人への啓発は）明るく気軽な感じで声をかけたらスムーズに行く「長く続けることが大事やから、怪我やトラブルのないよう無理せず、生活の合間にコツコツやっていきたい」「片側スタンドの自転車は倒れやすいので、生産しないよう（行政から）呼びかけてほしい」などと話していました。

◆市民の積極参加を

建設局市自転車対策課によると、この制度は平成十七年に発足し、現在、大阪市内で約二百人が登録。十八歳以上の二名以上のグループでの申し込みが原則で、港区では同町会が二例目。同課では「行政による規制や啓発だけでは限界があります。ぜひ市民の皆さんの積極的な参加をお願いします」と呼びかけています。同制度への問い合わせ・申し込みは☎六六一五・六七四八大阪府建設局自転車対策課まで。

安全・防犯

自転車は「二重ロック」に

盗難防止へ区役所呼びかけ

「自転車の盗難防止に二重ロックをしましょう」。港区役所（地域安全防犯担当）が港警察署の協力を得て九月二十六日朝、八幡屋商店街



→自転車の男性に「盗難防止のため二重ロックを」と呼びかける港区役所

職員☎11月9月26日、八幡屋商店街

で「二重ロック推進キャンペーン」を行ないました。区役所では毎月二十六日（平日）を「二重ロックの日」と定め、今年六月から毎月一回、区内スーパーの駐輪場などで自転車用ワイヤーロックを無料で取り付けるなどのキャンペーンを実施してきました。四回目の今回は、同商店街の買い物客らに呼びかけると共に、自転車用ワイヤーロック約百五十個を無料で配布しました。

自転車でも通るかかってワイヤーロックをもらった六十代男性は、「私も盗難に遭ったことがありますが、二重ロックは面倒なので、やっていませんでした。せっかく頂いたので、これを機にやってみたいです。こんなキャンペーンはいいことですね」と話していました。

住まいの防犯レベル高めよう

①ワンドア・ツーロックは常識
②ピッキングに強いカギに交換
③窓にも補助錠の取り付けを

PHS・携帯OK ☎0120-70-5569

(7-11) 港カギ防犯センター

安全・安心を
ご提供します

港区港南1-4-8
(港南小学校並び)

港カギ防犯センター

☆大阪府銃前技術者防犯協力会 会員
☆港防犯協会 会員 ☆防犯設備士第00-6738号

青少年

健全な遊びが一杯！

「わんぱくまつり」大賑わい



→大勢の子供たちで賑わった「みなとわんぱくまつり」Ⅱ9月16日、八幡屋公園（写真はクリップパズによるチャアリーディング）

「子供たちに健全な遊びと親子ふれあいの場を」。毎秋恒例の「みなとわんぱくまつり」

が九月十六日、八幡屋公園で開かれました。三十一回目。主催は財大阪市コミュニティ協会港区支部協議会、協賛は港区子ども会育成連合会、協力は港区青少年福祉委員連絡協議会、スポーツパーク八幡屋活性化グループ、シュライカー王国などと、みなとチャアリーディングチーム・クリップパズ。

開会式では笠谷一男・大阪市コミュニティ協会港区支部協議会会長と瓜生由美・港区子ども会育成連合会会長が挨拶。池島連合子ども会の代表が「お礼の言葉」を述べ、クリップパズが可愛いチャアリーディングでオープニングを飾りました。

◆心込めた各コーナー

真夏を思わせる日差しの下、地域の大人たちが心を込め、工夫を凝らした「スマートボール」「や・カーリング」「アーチェリー」「わりばしつぽう」などの遊びコーナーや「チューペック」「アイスゼリー」「たこせん」などの飲食模擬店が会場を囲むように並び、子供たちは「参加



→工夫された健全な遊びや飲食を楽しむ子供たち（写真右上は「や・カーリング」、右下は「まとあて」、左上は「わりばしてっぽう」、左下は「ターゲットバードゴルフ」）



カード」を首に次々と各コーナーをめぐり、各担当者が汗だくで世話や指導に当たっていました。

◆自然素材の遊びも

また今回は昨年に続いてNPOシニア自然大学校の「八幡屋クラブ」を中心としたグループが特別参加し、「子供たちに自然の素材を使った遊

びや工作を楽しんでもらおう」と、会場中央に

「木の葉の魚釣り」「竹ぼっくり」などのコーナーを設け、次々と訪れる子供たちに各担当者が、それぞれの遊びの手解きをしていました。

◆「下町らしい雰囲気が好き」

こころちゃん（六）、優之くん（四）、凛之介くん（二）の子供三人を連れて回っていた山田義之さん（四〇）（八幡屋）は「このイベントに参加するのは、三回目くらいです。何でもありの下町的な雰囲気がいいですね」。

「まとあて」コーナーでストライクを連発して驚かされていた芋谷悠大君と久保田青空君（共に三先子ども会ソフトボールチーム）は「このイベントには」何回も来ています。港区の色んな地域の子供たちと色んな遊びができるのが楽しいです。（ストライクを連発できたのは）普段ソフトボールの練習をやっているからかな」と話していました。

秋空に響く子どもたちの歓声と大人たちの汗だくの奮闘——「競争社会の殺伐とした空気から子供たちをひとときでも守ってやろう」という地域の愛情と熱意が感じられる催しでした。

環境

海遊ロードを明るく

ベンチ型フットライトが完成

「天保山エリアのメイン通りを一層明るく温かく」とベンチ型フットライトが「花の海遊口



→ベンチ型フットライトの完成式典で点灯スイッチを押す田端尚伸 港区長（左端）、今村末吉・花の海遊ロード美化協議会委員長（その右）ら110月4日夜

ード」に設置され、十月四日夜、同地域の「港振興ビル」前で完成式典が行われました。

式典では主催者を代表して今村末吉・花の海遊ロード美化協議会委員長が「個人・企業の寄付金や、築港小学校での花の育成など、地域の協力があつたからこそ実現した。ロード全体が光溢れる空間になることを期待する」、同じく

主催者を代表して田端尚伸・港区長が「花の海遊ロードを美化する活動の中で不法駐輪が減るなどの成果も上がっている。今日点灯される温かな光が、住む人には心の灯に、訪れる人にはこの町の魅力を発信する灯になることを期待する」、来賓の橋本誠・築港小学校長が「子供たちは花の海遊ロードを誇りに思つて作文や絵に表現しているが、このフットライトの完成で、

地域への想いはさらに強くなるだろう」とそれぞれ挨拶しました。

☆33台に白く温かな光

点灯式には港区の花・ひまわりのマスコットキャラクター「みなりん」や海遊館のマスコットキャラクター「トビー君」も登場。午後六時五十五分、カウントダウンからの合図と共に同

←点灯式の後、ベンチ型フットライトに腰かけて喜ぶ（右から）引地絹子さん、池嶋真弥ちゃん、池嶋未穂子さん



委員長や区長ら九人がボタンを押すと、同ロードのベンチ三十三台に設置されたフットライトが一斉に白く温かな光を放ち、拍手が起こりました。

☆花も引き立てられ

式典に参加した池嶋真弥ちゃん（築港小学校一年生）は「ベンチにライトが点いて夜の道が

とても明るくなり、嬉しいです」。母親の未穂子さん、祖母の引地絹子さんは「この道路でお花の世話をしている方たちをよく見かけますが、そのお花がフットライトで引き立てられ、一層美しく、温かく見えますね」と話していました。

☆寄付金を活用して

式典を主催した「花の海遊ロード美化協議会」は「国内外から訪れる人々へのおもてなし」を目的に平成二十二年九月に設立され、地域住民、商店会、企業、行政の協働で同ロードの美化に取り組んできました。

今回のフットライト（LEDⅡ発光ダイオードⅡを使用）設置はその一環で、「歩道空間の安全性向上とイメージアップ」を目的に、公益社団法人大阪港振興協会が創設した「天保山地区活性化のための寄付金」と「大阪ミュージアム基金」を活用。五月二十五日に十五基、この日で三十三基全ての設置が完了しました。

磯路小9年ぶりの

区Pソフト16チーム熱戦

港区PTA親善ソフトボール大会が九月九日に開催され、十六チームが熱戦を繰り広げました。港区PTA協議会の主催で三十一回目。磯路小が優勝、市岡東中が準優勝を飾りました。



→ 決勝戦5回裏 2死2塁から磯路小・西尾がサヨナラ2ランを中越えに放つ（左は茫然と打球を見送る市岡東中・神吉投手）

◆磯路小と市岡東中が決勝へ

午前八時に区内の四グラウンドで予選トーナメント戦がスタート。準決勝を経て午後二時四十分、磯路小と市岡東中による決勝戦が始まりました。

磯路小は初戦で港晴小に四対四で抽選勝ちすると、二回戦では市岡小を五対二で破り、準決勝では港南中に再び二対二の抽選勝ちを収めるなど、運も味方につけて三度目の決勝進出。一方の市岡東中は予選で南市岡小を二八対二、築港小を六対五、準決勝では港中を二三対五で撃破、二度目の決勝進出を果たしました。

◆西尾が劇的サヨナラ2ラン

決勝では初回、市岡東中は一番・石塚の四球を足場に四番・竹川の右前適時打で先制。その裏、磯路小は一番・山口の中前打を足場に三番・針間の中前適時打で同点。さらに押し出し四球でリードを奪いました。

しかし三回には市岡東中が石塚の右翼フェンス直撃二塁打を足場に三番・西澤の右中間二塁打で同点。そのまま最終回（五回）へもつれ込みましたが、市岡東中の表の攻撃を凌いだ磯

路小はその裏 一死から針間が右翼フェンス直

撃二塁打で出塁。四番・松本は左翼大飛球に倒れましたが、五番・西尾が市岡東小の二番手・

神吉の緩球を気迫の強振、ボールは中堅手の頭上を越える劇的なサヨナラ二点弾となり、一時間半に亘る熱戦に終止符が打たれました。

◆味ある投球、華麗な守備も

投手では磯路小が篠原から橋元へ、市岡東中が松本から神吉へと、共に四回からの継投策をとりましたが、制球抜群の篠原、緩急自在の橋元、速球派の松本、緩球多投の神吉と四投手ともに味のある粘りのピッチングで大量点を許しませんでした。また捕手陣（磯路の針間、市岡東の神吉・松本）のファイト溢れる捕球や頭脳のリードも試合を引き締めました。

守備では磯路の中堅手・山口による大飛球の跳躍捕球（二回表）、磯路の遊撃手・橋元による華麗な座り送球（三回表）、市岡東内野陣の俊敏な連係によるダブルプレー成立（三回裏）、磯路の一塁手・西尾によるベンチ際邪飛の滑り込み捕球（五回表）、磯路の三塁手・澤田による超強烈ゴロ捕球（同）など随所で目を見

張る好プレーが見られました。

また磯路のムードメーカー今野 G M に代表される両チームの積極的な声かけが、大会のクライマックスを一層華やかにしていました。

◆厳しい自主運営、来年も開催を

閉会式では成績発表と上位四チーム（三位は港中・港南中）の表彰が行なわれました。この中で山本慎一・港区PTA協議会会長（弁天小P会長）は「沢山のいい試合をありがとう」と参加チームの労をねぎらい、磯路小には「プロック大会と市大会での健闘」を期待。その上で「今年からこの大会も自主運営となり、大変厳しい状況になった。来年も開催できるように皆さんのご協力を」と呼びかけました。宮本隆司副会長（池島小P会長）は「全十五試合中、一点差が五試合、同点抽選も二試合と、緊張感ある試合が多く、引き締まった大会になった」と大会を簡潔に総括しました。また全試合の審判などで大会の円滑な運営を支えた港区ソフトボール連盟（西村正之理事長）の八人に、主催者から感謝の言葉が送られました。

◆チームワークのV3

優勝の磯路小は平成十四、十五年度（第二十二、二十三回）の連覇以来、九年ぶり三度目の栄冠。チームは毎週一回、同校グラウンドで各二時間半の練習を重ねてきました。

ひさばけんた
久場兼太監督は「優勝を目標に出場し、その



→ 9年ぶり3度目の優勝に沸く磯路小チ

ーム（後列左端は祝福する山本慎一・

港区PTA協議会会長）

通りになり、とても嬉しいです。原動力は何といてもチームワーク。それと、本来は攻撃型チームですが、この大会では投手二人の活躍が大きかったです。（連覇への課題は）五人いる投手の底上げ、そして点から線への打撃力の向上ですね」と顔を引き締めていました。

決勝でサヨナラ弾を放った「ブンブン丸」こと西尾淳一主将は「俺で絶対決めてやる！という強い気持ちでバッターボックスに立ちました。最高つす」と興奮気味に話していました。

◆2投手の活躍で初準V

準優勝の市岡東中は優勝した昭和六十三年度（第八回）以来、二十四年ぶり二度目の決勝進出も、優勝は成りませんでした。チームは同校のグラウンド事情から年三回しか練習できず、この大会前にも一練習試合をこなすだけでしたが、そんな練習量の不足を各選手の自主トレとチームワークで補ってきました。

安藤誠監督、川渕圭祐主将らは「決勝では三回表に同点にした後、なお続いたチャンスに追加点を取れず、流れを引き寄せられなかったのが響きました。残念な気持ちもありますが、

←準優勝にも爽やかな表情の市岡東中チーム（後列左端は祝福する西村正之・港区ソフトボール連盟理事長）



成績には満足しています。決勝まで残れた一番の要因は投手二本柱の奮闘。第一試合で先頭打者ホームランを放つなど各試合でリードオフマンとしてチームを勢いに乗せてくれた一番打者（同校・石塚教諭きょうゆ）の活躍も大きかったです。

（次回に向けての課題は）四試合をフルに戦える体力（笑）をつけることですね」と爽やかに話していました。

スポーツ短信

■池島連合子ども会が無念の抽選負け 第五十

回大阪市各区子ども会対抗親善ソフトボール大会（九月二、九日、大阪城公園野球場、二十三チーム出場）で、港区代表の池島連合子ども会チームは二回戦で長原ジュニアエース（平野区）と対戦。〇対〇の好試合を展開するも抽選負け。無念の初戦敗退となった。

■少年野球MINATO連合（港ヤンキース、

福岡ヤンチャーズ、市岡アトミック、港侍ジャイアンツ、弁天ホワイトボーンズ、北恩加島少年野球部の軟式六チーム）主催の第十三回大阪市長杯・第十四回MINATO杯大会は大詰めに入り、十六強が出揃う。少年野球の甲子園、舞洲ベースボールスタジアムでの準決勝・決勝戦めざして選手も保護者も審判団も奮闘。六五七六・七一九一駿河。

■大阪・港ボーイズ（少年硬式野球）中学部は

南支部予選に出場。一回戦を五対一で快勝。二回戦進出を決める。十月七日、太子グラウンドで初の卒団式。硬式に興味ある小中学生の体験練習・入部説明随時。六五七一・六七五三スポーツさんわ又は六〇九〇・一二二六・四九六四平野。

■港区小学生バレーボール教室「大阪みなと」

十一月は四日（日）に南市岡小で、十日（土）に三先小で九時から練習。三日（土）と二十四日（土）は大会。見学・体験歓迎。対象は三年生以上。六〇七〇・五六五九・四八三二萬井。

■弁天出身の天ノ若（あまのわか）大相撲秋場所（九月九

二十三日、東京）で三勝四敗。序二段・東五八枚目、玉ノ井部屋。本名天野清智、三十三歳。



南市岡在住画家 岸本 安司 (81)



「筋金入りのイチビリ」を自称し、綺麗なも
のや表に咲くものには見向きもせず、「隙間に
挟まったもん」「日陰に咲いとるもん」「けった
いなもん」ばかりを描き続けてきた南市岡在住
の画家・岸本安司さん(八十一)。その半世紀以
上に亘る絵画人生で描きためた作品の中から
「港区もん」を選び出し、それらにまつわるエ
ピソードなどを思いつくまに語って頂きました。
題して「みなとタイムスリップ ヤッさん
の今昔紙芝居」。第一回は「母と子」。

地上げ現場で見かけた

たくましい母と子

これは、私が大正保健所勤務の傍ら絵を描
き始めた、確か昭和三十三(一九五八)年ごろ
の油彩作品です。当時、港区は戦災復興と水害
対策のための「港地区復興土地区画整理事業」、
いわゆる「地上げ」の真っ最中でした。安治
川の川幅を広げ、川底を浚え、それで上がった
土砂をポンプで区内の低い所へ流し込んで土地
を高上げしたのです。この歴史的な大事業で、



→ 港区の地上げ工事現場で働く母親と赤ちゃん
を描いた「母と子」(一九五八年頃)

みなとちやう
いしだちやう
たなかもとまち
てんぼうちやう
港区の湊屋町、石田町、田中元町、天保町と
いった地名がなくなり、その上にあつた菊水小
学校などの建物も川の底に消えました。

その広大な工事範囲のうち、たしか今の弁天
か磯路あたりの現場で目に留まったのが、この
母子でした。頭に手ぬぐいを巻き、男に混じつ
てモッコ担ぎなどの力仕事をした後の昼休み。
黒々と日焼けした顔を我が子に向けて乳をやり、
何やら言葉を交わす姿が微笑ましく温かく感じ
られ、思わずスケッチしたものでした。お母さ
んの逞しい体つきと併せて、やんちゃやそうな
赤ちゃんの顔つきが今も心に残っています。

あれから五十余年。区画整理事業は既に完了
し、港区は水害に強い地域になると共に、街の
風景もすっかり様変わりしました。私より少し
若かったであろうあの母親も、その事業の一員
として立派に役目を果たした訳ですが、その後
どう生きたのだろう、また一緒にいたあの子は
どんなふう to 成長したのだろう―この絵を見て
は時折りそんなことを空想するこの頃です。

それにしても、今は母も子も、みなスマート
になりましたなあ…。

(つづく)

盲導犬を贈ろう！

暴風雨つきチャリティショー

藤かほりさんの志に声援

「目の不自由な人に盲導犬を贈りましょう」と波除在住の演歌歌手・藤かほりさんが九月三十日午後、港区民センターで「チャリティショー」を開きました。藤さんが視覚障害者との交流をきっかけに毎夏、秋に開催している恒例イベントで、十八回目。台風十七号による暴風雨の中、会場を埋めた大勢のファンが藤さんの志に熱い声援を送りました。

★かほり節をたっぷり

藤さんはオープニングの『珍島物語』を皮切りに、一心流鎖鎌術創始者の生き様を讃えた『男の夢十二代』を鎖鎌の実演入りで披露したのをはじめ、平和への願いを込めた『知覧の母・ホテル』、股旅演歌の定番『瞼の母』などを熱唱、情も艶も迫力もある「かほり節」をたっぷり聴かせました。『瞼の母』では三年前に亡くなった女性ファンから贈られたという衣装を

←平和への願いを込めて『知覧の母』を熱唱し、感銘を与えた藤かほりさん



着けての熱唱が感動を呼びました。また『昂の踊りや』『無法松の一生』の祇園太鼓の乱れ打ちも披露し、喝采を浴びました。会場には「ふじく！」「かほりちゃん！」「がんばれ」などの声援が飛び交いました。

★日本ライトハウスに寄付金

ショーの中盤に行なわれた寄付金贈呈式では、視覚障害者のための総合福祉施設「日本ライトハウス」の橋本照夫理事に、藤さんからショーの収益金の目録が手渡されました。同施設で養成された盲導犬ティオ（メス・四歳十カ月）も



→暴風雨をついて行なわれた「盲導犬チャリティショー」。写真は藤かほりさん（左端）からの寄付金に感謝を述べる日本ライトハウスの橋本専務理事（中央）。右端は盲導犬ティオ

舞台上がり、大きな拍手を受けました。

同理事は感謝のあいさつの中で、「盲導犬事業は昨年十二月に四十周年を迎え、藤さんと港区の皆さんには平成七年から協力して頂いていきます。最近では毎年約二十五頭を養成し、去年までに六百頭の盲導犬を目の不自由な人たちに提供することができました」と報告、「行きたい時に行きたい所へ行くという当たり前のことを視覚障害者ができるよう、安心してできるパートナー」としての盲導犬を一頭でも多く養成したいので、これからも「協力をお願いします」と区民の一層の支援に期待を寄せました。

藤さんが「毎回幕が開くまでは不安でたまりませんが、こうしてたくさんの方が来て下さると、本当にやってよかったと思います。今日は台風にも拘らず、区内はもとより東京や千葉北海道などからも駆け付けて下さり、更に勇気づけられました。一頭の盲導犬が活躍できるのは十年。十年たつとまた一頭必要になります。何としても二頭目を贈るため、これからも続けさせて下さい」と呼びかけると、会場から割れるような拍手が起りました。

★暁照夫・光夫さんに爆笑

終盤にはメインゲストの人気音曲漫才コンビ、暁照夫・光夫さん（松竹芸能）が登場。「海が近い港区では新鮮な魚が食べられるから綺麗な女性が多いんや」（会場を見渡して）全部やないけど」「祝儀をくれた人に向かって藤さんのファンはええ人ばかりやなあ」など



→見事な三味線と巧みな話術で会場を笑いの渦に巻き込んだ暁照夫・光夫さん

と持ち上げた上で、定評ある三味線演奏や浪曲の語りを延々と続け、「はよ手え叩けや。だんだん横着になってきよったなあ」と落したりして会場を笑いの渦に巻き込みました。最後に披露した二人揃っての三味線ロング弾きには、盛大な拍手と共に「見事やなあ」などと感嘆の声が上がりました。

因みに、暁照夫さんは十一歳から天才少年浪曲師として活躍。一九五八年に宮川左近シヨウを結成。七二年に上方漫才大賞を受賞するなど長らく上方演芸界の看板を張りましたが、左近さんの病死で八六年にトリオ消滅。八七年に光夫さんとコンビ結成。〇八年には文化庁芸術祭賞大衆演芸部門大賞を受賞しています。

★杉俊一さんら熱唱

また、他のゲスト出演者も「少しでもお役に立てれば」と藤さんの志に共鳴し、熱演を繰り広げました。このうち三度目の出演で、高知県出身・八幡屋在住の演歌歌手・杉俊一さん（キングレコード）は、定評ある高音域の美声でヒット曲『都城の女』や『リツ子・流れ花』『夢多町の夜』『元禄男華』などを、同じく三度目

←杉俊一さんは高音域の美声で「都城の女」などを熱唱し、藤さんの志を応援



の出演で、藤さんと同じ安藤実親門下の川村正幸さんは、北海道の現役漁師らしい豪快な歌いっぷりで新曲『友よ…ありがとう』や『男才女才』『夕張の人』などを披露しました。



→川村正幸さんは力強い歌声で「友よ…ありがとう」などを熱唱し、藤さんを支援

また司会の藤田明美さんは初登場ながら爽やかな司会ぶりで舞台を盛り上げました。

なお、藤さんの母校・市岡中学校の吹奏楽部がオープニングで演奏を披露する予定でしたが、折からの台風のため中止となりました。

★藤さんは庶民的と来場者

会場の前方で盛んに拍手を送っていた多田千壽子さん（波除で「喫茶ココ」経営、蒲宏海さん（河内長野市）、西林新次さん（大正区）の男女グループ（三人とも七十一歳）は、「藤さんは庶民的やし、歌も迫力があって、ずっと前からのファンです」「冒導犬を贈るのはほんまにええこと。寄付金の贈呈式には毎回感動します」「三味線漫才は味があって面白かった。今の若いものの漫才はよう分からん」などと話し、暴风雨の中を満足そうに帰路に就いていました。



十八年も続くロングラン・チャリティですが、「世のため人のため」の想いが舞台にも客席にも浸透し、その蓄積の中からまた新たな感動・感激が湧き上がったイベントでした。

芸能ミニ情報

●三先出身の歌手・香西かおりさん 今年には歌手生活二十五周年。チャリティコンサートやオークションを通じて被災地支援を継続▽デビュー二十五周年記念シングル第二弾『酒のやど』テレビ大阪ドラマ『逃亡者おりん2』の主題歌『糸車、からり』『愛し、恋し』好評▽十一月二十五日（日）十二時十五分～十三時「NHKのど自慢」出演予定▽十二月十九日（水）ホテル・アゴラリージェンシー堺（旧リーガルイタルホテル堺）で「香西かおり&門戸竜二デイナーショー」▽かおり倶楽部は夕風一・一八ローレルハイツ一階（平日十～十八時）。



→香西かおりさん

●弁天在住の歌手・青木美香子さん 毎週水曜

二十時からベイコム11チャンネルで「ミカ

おおさかうたえまき

リンの大坂歌絵巻」放送中▽▽十月十日に新曲

『愛月マナヅキ』を発売、好評▽十月から

毎週月曜十五時五十分～十六時にサンテレビ

「スマイルパワーTV」出演▽十月十五日(月)

「通天閣歌謡劇場」に出演▽十一月四日(日)「野

口カラオケ教室」にゲスト出演予定▽十一月八

日(木)心斎橋「風は東から」で青木美香子ライブ

開催予定▽十一月十五日(木)～十八日(日)

しゃんはい

に中国上海市で開催の「CITM(中国国際

りょゆう

旅游交易会) 2012」に出演予定▽八六五七

六・六六五三オフィスMIKARIN。



→青木美香子さん

伝統



→雅楽鑑賞会で「越天楽」を演奏する大阪府
神道青年会・雅楽同好会 11月29日夜

神仏の加護で地域の幸福を

天満宮で雅楽などの鑑賞会

しんぶつ

「神仏のご加護で地域の安全と幸福を」と九

月二十九日夜、三先の天満宮で雅楽などの鑑賞

会が開かれました。同神社の主催で三回目。地

元住民を中心に数十人が参加。台風の影響で小

雨降る中、とつぷりと日暮れた初秋の境内の

特設舞台で、①『大祓詞』の読み語り②

おおはらえのこころば

『声明』の朗詠③『雅楽・舞』の演奏・演舞

しょうめい

まい

えんぶ

が行なわれました。

◆青年神職らが『大祓詞』

このうち『大祓詞』読み語りでは、祝詞(神事

のりと しんじ

の際に神前で読み上げられる文章)の一種で、

心身の穢れや災厄の原因となる罪・過ちを祓

けが

さいやく

あやま

い清めるために奏上される大祓詞が、分かり

そうじょう

易い口語訳を加えながら、大阪府神道青年会・

こうご

しんどう

演劇同好会によって読み上げられ、参加者も声

を合わせました。

演じた演劇同好会は、大阪府下の満四十歳未

満の青年神職から成る大阪府神道青年会の同

しんしよく

な

しんどう

好会で、紙芝居「天の岩戸」や劇版「ヤマトノオロチ」上演などを積極的に続けています。

◆神仏に向き合う気持ちを

このあと天満宮奉賛会の福寿軍治副会長と村岡康生宮司が挨拶に立ち、「大神様のご加護を頂戴し、地域の皆様に喜んで頂くための行事として三回目を迎えた」とこの取り組みの経緯を紹介すると共に、「今日は神仏の力を体感できる演目を揃えた。神仏に向き合う気持ちを一層培って頂きたい」と呼びかけました。

◆僧侶が朗々と『声明』

続く『声明』朗詠では、平和への願いを込めた「六種回向」、自己中心の心を戒め、周りに施す生き方を勧める「九條錫杖」、厳しい修業の後の歓びを僧が足踏みしながら表現する「古慶梵語讃」など七曲を、和宗総本山四天王寺僧侶荻山教生氏が解説しながら、透き通った伸びやかな声で詠い上げました。

声明とは仏教の経文を朗唱する声楽のこと、インドに起こり、中国を経て日本に伝来し、その曲節は浄瑠璃・浪花節・民謡などに大きな影響を与えたといわれています。

←『声明』を朗詠する和宗総本山 四天王寺僧侶・荻山教生氏



演じた荻山氏は修行時代に比叡山延暦寺の行院で声明を基礎から習得。平成十五年にはカンボジアのアンコールワットで開催された東儀秀樹氏の演奏会で天台宗僧侶の声明衆としてコラボレーションを果たしました。

◆ゆったりと『雅楽・舞』

最後の『雅楽・舞』では、大阪府神道青年会・雅楽同好会が、雅楽の中でも最もポピュラーで黒田節の原曲にもなっている「越天楽」、次いで「迦陵頻」を演奏。最後に巫女姿の女性が榊

を手に祭祀舞「豊栄舞」を披露しました。普段は耳にできない神秘的な音色、米欧の音楽や舞踊にはないゆったりとした動きが印象的でした。

演じた雅楽同好会は、前出の大阪府神道青年会の同好会の一つで、自社や他社の祭典での演奏はもちろん、一般の演奏会にも出演するなど積極的な活動を展開しています。

同会によると、雅楽は千三百年以上前に大陸から入り、日本古来の音楽と融合しながら千年ほど前(平安中期)にほぼ今の形になりました。



→「豊栄舞」を披露する大阪府神道 青年会・雅楽同好会の女性

管・弦・打の三楽器から成り、この日は管楽器だけで演奏されました。

◆「心洗われ、癒された」

最前列で鑑賞していた曾原里子さん（夕風）

は「以前に仏教系の大学で教えていたことから

しよつみよう

『声明』に興味があり、初めて参加しました。

声明にはもちろん感動しましたが、雅楽や舞も

素晴らしかったです。ゆつたりとした旋律や動きに心洗われ、癒されました。この鑑賞会は気

い

軽に参加でき、日本の伝統文化に触れられる、素晴らしい催しですね」と話していました。

◆「感謝」「お蔭」の認識を

イベントを終えた村岡宮司は「東日本大震災など悲しい出来事が相次いでいる今こそ宗教の

力の再確認を！と今回は神仏に特化した演目を揃え

ました。神道も仏教も根本は同じ。日本人の奥ゆかしさや感謝の美徳は神仏に向き合う機

会が多い中で培われたものと考えます。今日の取り組みを地域の方々に楽しんで頂けたこと

つちか

を嬉しく思うと同時に、これを機会に、より一

層『感謝』や『お蔭』を認識して頂ければと願っています」と話していました。

音楽



→ 関西吹奏楽コンクール高校の部小編成で
3 度目の銀賞を獲得した港高校吹奏楽部
Ⅱ 8月19日、尼崎市総合文化センター

港高が関西吹奏「金」銀

市岡高は府で「金」、4 中学も健闘

切磋琢磨で向上めざす

「吹奏楽を通じて青少年に豊かな感性と高い協調性、強い精神力を」と毎夏、秋に行なわれる「吹奏楽コンクール」に港区の各中学・高校の吹奏楽部も参加し、日頃の練習の成果を発揮しました。

◆リズム感・テンポ感を養い

このうち港高校吹奏楽部は二〇一二年関西吹奏楽コンクール高等学校の部・小編成（八月十九日、尼崎市総合文化センター）で見事、銀賞（出場十六校中八校）に輝きました。〇九、一〇年に続いて三度目（一一年は銅賞）。

同部によると、部員二十七人は寺地亮さんの指揮・指導のもと、喜歌劇「モスクワのチェ

てらちま

リヨムーシカ」（D・シヨスタコーヴィチ作曲、

ひでみ

鈴木英史編曲）の練習を重ねました。その中で、メロディに歌詞を付けてリズム感を養い、踊ったり行進したりすることでテンポ感を鍛え、表

現力を一歩一歩向上させていきました。

コンクールには二十五人が出場。大阪府北地区大会（七月二十七日）では優秀・代表校に、続く大阪府大会（八月十三日）でも優秀・代表校に選ばれ、見事、四年連続の関西大会出場を達成、三度目の銀賞獲得も実現できたのでした。

コンクールを終えた松本紀夏部長（三年生）は「今年も関西大会に出場でき、とても嬉しいです。過去三年連続出場というプレッシャーがあつたので、出場が決まった時はホッとしてました。本番にはミスもありましたが、全員が楽しんで演奏できたので良かったと思います。ここまでこれたのも、顧問の先生を始め、指導者の方や応援して下さいさるOB・OGや保護者のおかげだと思っています。目指していた関西金賞は果たせませんでした、この感謝の気持ちを忘れず、来年も同じ舞台に立てるよう、後輩たちに頑張ってもらいたいです」と話していました。

なお、同部はコンクール後も、文化祭での演奏や介護施設への訪問演奏、中学生向け高校説明会での演奏などのスケジュールを控え、練習を続けているということです。

◆聴く人の心に響く音楽を

一方、市岡高校吹奏楽部は関西吹奏楽コンクール大阪府大会・高等学校の部・大編成（八月十日、大阪国際会議場）に出場し、金賞を獲得しました。

同部によると、部員一〇六人は潮見裕章さんの指揮・指導のもと、葛屋茉莉亜部長（三年生）を中心に、六月ごろから「心」チーム（コンクール出場をめざす）と「響」チーム（様々な音楽会に出演する）に分かれ、励まし合いながら活動。このうち「心」チームの五十三人は、コンクール課題曲である行進曲「希望の空」（和田信作曲）と、自由曲「パガニーニの主題による狂詩曲」（S・ラフマニノフ作曲、森田一浩編曲）の練習を重ねました。そして大阪府北地区大会（七月二十六日）ではシードで代表校に選ばれて一回連続金賞（又はシード）を果たし、大阪府大会でも十一年連続金賞を果たしました。

同部は十五年前にプロの楽団演奏者（大阪交響楽団テューバ奏者）でもある潮見さんを迎えて以来、「聴く人の心に響く音楽を」をモットーに高い演奏水準を維持。関西大会では二〇〇五

←関西吹奏楽コンクール大阪府大会・高等学校の部・大編成で十一年連続金賞に輝いた市岡高校吹奏楽部

八月10日、大阪国際会議場



年から二年連続金賞。二〇〇七年は府大会止まりでしたが、二〇〇八年から二年連続銀賞、二

〇二〇年から二年連続金賞に輝いていました。

残念ながら今年は、七回目の関西出場は果たせませんでした。正負の教訓をしっかりと総括した上で、現在、三年生引退の後を受けた一・二年生七十六人が、「演奏させて頂く一つの機会を大切にしながら、皆様に楽しんで頂けるような演奏をめざしていきたい」と、来年のコンクールでの「全国大会出場」をも視野に入れた質の高い練習を始めています。

◆市岡中が府大会で優秀校に

一方、港区の中学校吹奏楽部では、市岡中が二〇一二年関西吹奏楽コンクール大阪府北地区大会・中学校の部・小編成（七月二十七日）で優秀・代表校に選ばれ、大阪府大会（八月十三日）でも優秀校に選ばれました。

また、築港中、港中、市岡東中は、同コンクール大阪府北地区大会・中学校の部・小編成でいずれも優秀賞でした。

港区ではこうして中学校・高校の各吹奏楽部が互いに競い合い、教え合い、励まし合い、切磋琢磨して演奏水準の向上を目指しています。

演劇

ロマンあふれる舞台

あんがにおまる一座『銀の幕』

映画草創期の苦労と楽しさを描く

「映画草創期の苦労と楽しさが、ロマン溢れるストーリーと美しい音楽で甦り、楽しませてくれました」――。あんがにおまる一座による音楽劇『銀の幕――街に映画がやってきた』が九月十六、十七日に波除の劇場「世界館」で上演され、好評でした。故綾羽一紀さん脚本・作詞、岩城利之さん作曲、あんがにおまるさん演出。

◆ライブで発展させた活動写真

――時は明治三十年。大阪は南地演舞場前に並ぶ人、人。目当ては仏蘭西のリュミエール兄弟が発明した「シネマトグラフ」。人や犬が動き、列車が眼前へ驀進してくる現象に人々は目を白黒。導入した大門桃三郎（浜木克行さん）は鼻高々。ライブの町屋文次郎（ヨッシー原本さん）も負けてはいない。亜米利加のエジソン

が発明した「ヴァイタスコープ」を導入して大成功。それら「活動写真」はたちまち一世を風靡する。だが大衆の目は、耳は、更に上を求めた。「色がない」「音がない」「筋がない」「女



→映画草創期の苦労と楽しさをロマン一杯に表現した音楽劇『銀の幕――街に映画がやってきた』の一場面

がない」。それでも二人は良き腹心ふくしんをそれぞれに得、競い合い、私生活の悩みも抱えながら、愛する「活動大写真」を進化・発展させ続ける。弁士に楽団、フィルムに色づけ、小説の脚本化に女優の採用……。その中でロマンスが生まれ、切ない別れもあった。そして時代はやがてトーキー（音声付き映画）へ、カラースコープ（総天然色映画）へと進んでゆく――。

◆映画への想いを凝縮

日本映画草創期の苦労と楽しさを、フィクションまじを交えたロマン溢れるストーリーで甦あふらせた故綾羽一紀さんの脚本が出色で、二時間超の舞台があつという間に感じられました。

特に、ライバル意識を持ちながらも互いに認め合い、困難に直面しながらも楽天的に映画への愛を貫いてゆく主人公二人の人物造形ざうけいには、亡き綾羽氏の映画への想いが凝縮ぎようしゆくされているように感じられ、エンディングの後に、サイレントからトーキーへの移行期を描いたミュージカル映画の名作『雨に唄えば』（一九五二年米）の実写を添えた点にも、それは窺うかがえました。

◆演技・歌唱・踊りなど充実

役者も主役の二人を筆頭に、総じて役の心が籠こもった落ち着いた演技を見せ、料亭での女将おかみの所作や、芸者の日舞にちぶ（共に元OSK・吉津たかしさんが指導）などもソツがなく、稽古けいこの積み重ねが感じられました。また明快で若干のユーモアを含んだ語り部の語り口には独特の味わいがありました。

挿入の歌曲は十二曲全てが美しい旋律と楽しいげな歌詞を持ち、役者の歌唱や踊り（女優役の梶岡志保さんが指導）にも安定感と華やかさがあり、音楽劇として充分に楽しめる水準を感じさせると共に、長時間の観劇を最後まで快適に運んでくれました。

全体として、同劇団発足十七年の積み重ねが総合的に発揮された、充実の舞台でした。

演劇ガイド

●あながいおまる一座・千利休物語『花は野にあるように』 港区を拠点に良きふれあいを求めて演劇活動続ける庶民劇団のスタジオ公演。信長や秀吉に仕え、「茶の心は静けさの中に

ある」と説いた茶人の内面の葛藤かつとうを描く。綾羽

一紀脚本、あながいおまる演出。十月二十七日（土）十四時、十六時、二十八日（日）十三時、十五時。当日一般二千六百円。問い合わせ・申し込みは会場の石炭倉庫波除六・五・一八、JR弁天町駅から国道四三号を北へ直進、安治川堤防突き当たり右すぐ。 〇六五八一・〇六六四へ。

ライブ情報

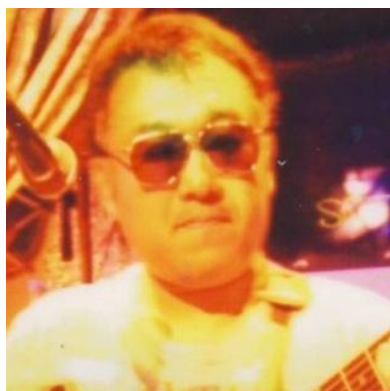
●八幡屋出身のロックドラマー 桐田勝治さん 所属バンド「ガーゴイル」のアルバム『虹融合』好評▽十一月二十五日（月）十八時半から江坂ミューズ（〇六三八七・〇二〇三）でガーゴイル二十五周年ライブ「虹融合周遊」に出演予定。



→ 桐田勝治さん

●三先のフォーク歌手ペドロさん 切断ブラザーズ

(親指切断の共通体験を持つ三人で〇六年結成)のリーダーやソロでオリジナルフォークソング▽十一月十八日(日)「すみよし博覧会」(十二〜十七時、住吉公園)に「ペドロ&かずみ」で出演予定▽毎月第一・三木曜二十時ザ・セラー(中央区西心斎橋二・一七・一三新スミヤビル地下、☎六二二二・六四三七)▽毎月第一火曜二十時かつおの遊び場(中央区宗右衛門町四・五宗右衛門町センタービル二階、☎〇九〇・五八八二・七〇一五)▽毎月第二火曜二十時半ロージー(中央区西心斎橋二・九・五日宝三ツ寺会館地下一階、☎六二二三・三九九九)。



↑ペドロさん

文化

ふるさと

故郷の話をしよう

島根県・隠岐の島出身

かわい みのる

川井 稔さん(磯路)〈上〉

「♪砂山に騒ぐ潮風 鯉舟入る浜辺の」(昭和四十年北原謙二『ふるさとのななしをしよう』)。生粋の港っ子もいれば、最近越してきた住民もかなりを占める港区。その中で結構目立つのが地方出身者です。都会生活の慌たしい日々にはっと一息つくのは、そんな故郷の懐かしい思い出に浸る時かもしれません。また港っ子や浪花っ子にとっても、未だ見ぬ異郷の今昔に思いを馳せるのは時空間旅行にも似た快感でしょう。そこで、幼少期・青年期の悲喜交々を織り混ぜながら、皆で故郷の話をしませんか。そのトップバッターは、遙か日本海の隠岐の島から十五歳で上阪し、現在は磯路で「珈琲館 隠岐」を営む川井稔さん(六四)です。

× × × × × ×

◆隠岐は絵の島・花の島

私の故郷・隠岐諸島は日本海に浮かぶ大小百八十余りもある島々から成り、古くから「♪隠



→結婚前に妻を連れて帰郷、名勝・国賀海岸の通天橋を訪れた。昭和46年夏、共に24歳だった

岐は絵の島・花の島」と詠われた風光明媚な地です。後鳥羽上皇や後醍醐天皇が流された島としても有名です。

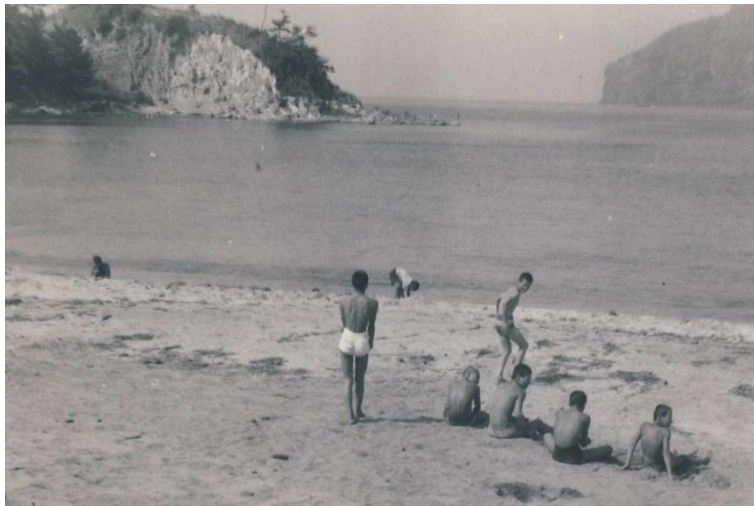
その隠岐諸島の中で、私の生まれ育った西ノ島は二番目に大きな島で、火山島であったことから起伏が激しいのが特徴です。日本海にあることから「かなり寒いやろ」と思われがちですが、対馬暖流のお陰で、それほど過酷ではありません。

◆海で終日遊んだ

その西ノ島の一番の自慢は海の実しさです。特に名勝・通天橋を有する国賀海岸は隠岐の代表的景観として知られています。加えて外浜海水浴場などに見られる海浜の砂の白さはびつくりするほどです。子供の頃の夏は、この美しい浜で終日泳ぎました。そして、小学校高学年から中学時代にかけては、五人ほどで「カンコ」と呼ばれる幅一・五メートル×長さ三メートルの小さな木製の船に乗り込み、交替で櫓を漕ぎながら沖合に出、のんびりと日がな一日、釣りを楽しんだものでした。

◆シャラ船の風習

「子供の頃、日がな一日遊んだ外浜海水浴場。砂の実しさはびつくりするほど」



その海にまつわる思い出の中で、特に感慨深く思い返されるのが「精霊船」です。それはお盆の風習の一つで、幅二メートル×長さ五メートルの藁の船でした。私の生まれた美田という村には四つの部落があり、部落ごとに一隻ずつ造りま

した。

造り手は小学五・六年生の男の子らで、まず農家から藁をもらい受け、皮を剥いで実だけにし、それらを縄で束ねて船体を形作ります。船



→今も残る精霊船の風習。左が精霊船、右が飛び込んだ子らを引き上げる漁船

体の中央部分には長い竹二本を帆柱として立て、それぞれの先端から船先と艫へ縄を何本も伸ばし、帆柱と帆柱の先端どうしも縄で繋ぎます。船先には縄で作った渦巻状の飾りを海へ張り出すように取り付けます。

完成した船にはお供えの菓子や果物が積み込まれ、船を造った三〇四人が一緒に乗り込み、御詠歌に送られて沖へ漕ぎ出します。しかし藁の船なので、当然ながらじわじわと海水が浸み込み、やがて沈み始めます。そしていよいよ沈没する間際、乗っていた三〇四人は海へ飛び込み、付いてきた漁船に助け上げられるのです。私も体験したこの伝統行事は、嬉しいことにも続いていますが、これからも途絶えることなく保存されることを願っています。

◆溺れて死にかけた

ところで、この思い出深き海で私は四回も溺れ死にかけたことをついでお話ししましょう。一回目は幼少の時でした。海辺で遊んでいて、皆がいる所まで移動しようと歩いていると、水が顎の深さまで来た時、急に足が浮き上がって頭から水中に沈んでしまったのです。幸い、

この時は長兄が気付いて助けてくれました。

二回目は小学二年生の時。海釣りをしていた溺れ、姉が助けてくれました。三回目は小学三年生の時で、やはり海釣りをしていた溺れ、次兄が助けてくれました。

そして四回目は小学四年生の時。船の艫（一番後ろ）で立ち小便をしていたら、急に大きな波が来て、その揺れで海中へ落ちてしまったのです。この時は船に乗っていた近所の高学年の男の子が釣竿を差し出して助けてくれました。

ただ、いずれの時も、周りに誰かがいるという安心感で、水の中でも不思議と怖くなかったのを覚えています。

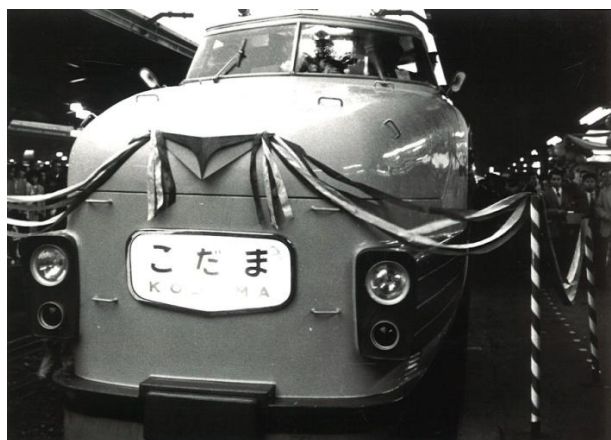
◆家族で力合わせ生活

さて、島ではどの家族も皆で力を合わせて生活していましたが、早くに父を亡くし、母が外で働き、長兄と姉も中学を卒業して働きに出ていた私の家では、下の男兄弟三人（次兄・私・弟）が重要な役割を果たしました。来月はそのお話をしましょう。

(つづく)

「三三三」案内

●交通科学博物館「特急百年〜時代と共に駆けろ〜」一九二二（明治四十五）年六月に「特別急行」が誕生して今年で百周年。庶民が乗れない「豪華列車」だった登場時から、全国に特急網が形成された昭和中期を経て、現在の多種多様なニーズに対応する「便利な列車」になるまでの「特急ヒストリー」を「時代と共に駆けろ」た「特急列車」「華麗なる「特急列車」「私鉄特急いろいろ」の三コーナーに分けて紹介。



特急トレインマーク、縮尺二十分の一模型、トワイライトエクスプレスの制服、私鉄特急のNゲージ模型、写真などを展示Ⅱ写真は「大阪駅で出発式を行う『第2こたま』(昭和三十三年)」。

十月十三日〜来年一月二十七日▽他に「交通科学博物館の軌跡」(十一月二十五日まで開催中)

「みなと探検隊、12」(十月二十八日)「鉄道で使う『はかる』道真たち」(十月二十日〜来年

二月二十四日)「スギテツわくわく鉄道コンサート」(十一月三日)「のりもの王国富山パネル展」

(十月二十八日まで開催中)「ミニSL運転会

(十月二十七、二十八日)などの催しも▽十

十七時入館、月曜休館(祝日なら開館し翌火曜

休、火曜も祝日なら振替休なし)。高校生以上四

百円、四歳〜中学生百円。JR弁天町駅すぐ。

☎六五八一・五七七一。

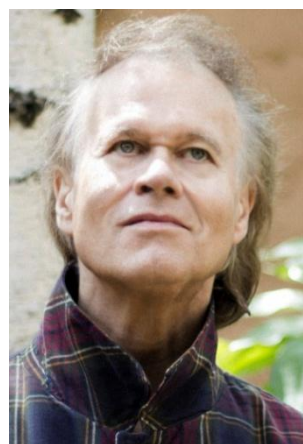
●関西フィルハーモニー管弦楽団「第243回

定期演奏会」 同楽団の音楽監督、オーギュス

タン・デュメイⅡ写真Ⅱが世界的チェリスト、

ジャン・ワン「王健」Ⅱ同左Ⅱの魅力を引き出

した特別プログラムを贈る。デュメイはカラヤンとの出会いをきっかけにキャリアを広げ、ソ



リスト・指揮者として世界の主要楽団、著名指揮者との共演を重ね、現在最も卓越し、知的なヴァイオリニストの一人として揺るぎない地位を確立。ジャン・ワンは中国に生まれ、十歳でアイザック・スターンに出^{みいだ}され渡米、アバド指揮マーラー・ユーゲン^{かん}ト管やシャイー指揮コンセルトヘボウ管と共演するなど世界的に活躍。使用楽器は一六二年製A&Hアマティ。演奏曲目は①シューベルト…「ロザムンデ」序曲D・644②シューマン…チェロ協奏曲イ短調作品

129③シューベルト…交響曲第3番ニ長調D・200。十一月二十二日(木)十九時からザ・シンフォニーホール(JR環状線「福島駅」から北へ歩約七分)で。S席五千円、A席四千円、B席三千円、学生席千円(全席指定・税込)。

☎六五七七・一三八一。

●関西フィルとともに歩む会「秋空にとどろけ

トランペットコンサート」 毎秋恒例の演奏会。

同フィル首席トランペッター堀川正浩^{まさひろ}さんが

秋らしい柔らかな音色^{ねいろ}を聴^きかせる。十月二十日

(土) 十四時半から港ルーテル教会(磯路一・

二・一八)で。参加協力費千五百円(中学生以

下八百円)。定員五十名。演奏曲はヘンデル「水

上の音楽」より、たかしあきひこ「四季のメ

ドレー」より、さだまさし「北の国から」他。

出演はトランペットが堀川正浩、堀川仁美^{ひとみ}(友

情出演)、ピアノが加地美秀子^{かじみほこ}(協力出演)。要

事前予約。問い合わせ・申し込み先はTEL・

FAX六五四・七七五六^{あだち}足立。

●港図書館 ①秋のこどもかい(第十五回大阪

市図書館フェスティバル)Ⅱ十月二十七日(土)

十四〜十五時に港区民センター1階会議室で。

当日先着四十名。えぶろん座によるマリオネット「あずきとなにわのやさい」など、秋の読書週間に合わせての催し。見て、聞いて、触^{さわ}って、マリオネットの世界をまるごと味わえる②図書展示「東北を知ろう」展Ⅱ十月三十一日まで実施中。東日本大震災発生から一年半以上。東北とはどんな所なのか、暮らしや現状などが書かれた本を一堂に。展示リストあり③図書展示「芸術に親しむ本」展Ⅱ十一月一日（木）～十二月二十七日（木）。展示リストあり▽**六五七六**、二三四六。

●**弁天町市民学習センター・弁天シネマ倶楽部**

『ローマの休日』 ヨーロッパ旅行中の某国の王女アン（オードリー・ヘプバーン）は、毎日の過密なスケジュールにうんざり。ある晩、側近たちの目を盗んで滞在中のローマの街へ飛び出す。偶然出会った新聞記者のジョー（グレゴリー・ペック）は、スクープにしようと彼女を市内観光へ連れ出すが、二人の距離は次第に近づいてゆき…**Ⅱ写真は一場面**。「心に残る名画を低料金で市民に」と同センターが企画したシリーズの二十五回目。永遠の人気女優オードリー



ーの代表作を同倶楽部四周年記念で再上映。監督はウィリアム・ワイラー。一九五三年アメリカ映画。モノクロ・字幕 一一八分。十一月十七日（土）十時と十四時。各回当日先着百名。料金は一人一回六百円（前売五百円）。当日正午から三十分、ロビーでライブを予定。**六五七七**、一四三〇。

●**弁天町市民学習センター「オーク弁天寄席」**

関西を中心に活躍する中堅・若手芸人による定例地域寄席の二五回目。十月二十四日（水）十九時～二十時半。落語、講談など多彩な出し物で人気。出演は笑福亭學光（徳島出身の落語家）、旭堂南鱗（大阪出身の講談師）をレギュラーに、今回は桂福丸、桂春若、一龍斎貞

弥も。オーク弁天寄席の会と同センターが主催、○RC200店舗会が協賛、ラジオ大阪が協力。入場無料。当日先着百二十名。**六五七七**、一四三〇。

●**ガットネロ** 市岡在住の社会派シャンソン歌手・松浦由美子さん**Ⅱ写真Ⅱ**主宰の音楽喫茶。

毎月様々な企画。①HAMORIBE（はもりべ）のうた★カフェ第九回Ⅱ十月二十六日（金）十五時、十九時。若手テノールデュオ（中川公志・小原有貴）が日本の懐かしい歌を歌う（ピアノ・古谷優子）。会費各二千五百円（一飲物付、定員十五人、要予約）②クラシック・カフェ第二十六回「ベートーヴェンの名曲を味わう」

Ⅱ十一月二日（金）十九時。吉矢千鶴（ヴァイオリン）＋吉野正江（ピアノ）。会費二千円（定員十五名、要予約）▽ガットネロは天王寺区上



本町六・二・三七、地下鉄谷町九丁目駅①出口、
六六七七・〇〇二一。

●港近隣センター・懐かしの名画劇場『權』 大

正・昭和の高知を舞台に、女衞一家の波乱に富んだ出来事の数々や、妻と夫の別離を描く。宮尾登美子の同名小説を『北の螢』の高田宏治が脚本化。監督は五社秀雄。出演は緒形拳、十朱幸代、名取裕子、草笛光子他。一九八五年東映Ⅱ写真は映画パンフレット。十一月九日（金）十四時。協力金百円▽同センターは八幡屋一・四・二〇（入舟公園隣）。問い合わせは六六五七二・〇〇二〇（財）大阪市コミュニティ協会港区支部協議会へ。



●シネ・ヌーヴォー『追悼特集 女優・高峰秀子 アンコール』

十一月十日～二十三日に特集上映。卓越した演技力で日本映画の黄金時代を駆け

け抜けた名女優の追悼シリーズ第二弾。木下恵介全作品上映を受けて、今一つのコンビ、成瀬巳喜男監督の作品など十七本を上映。『花つみ日記』（一九三九年石田民三）『阿片戦争』（一九四三年マキノ正博）『宗方姉妹』（一九五〇年小津安二郎）『我が家は楽し』（一九五一年中村登）『東京のえくぼ』（一九五二年松林宗恵）『煙突の見える場所』（一九五三年五所平之助）『女といふ城 マリの巻』（一九五三年阿部豊）『女といふ城 タ子の巻』（一九五三年阿部豊）『浮雲』（一九五五年成瀬巳喜男）Ⅱ写真Ⅱ『妻の心』



（一九五六年成瀬巳喜男）『あらくれ』（一九五七年成瀬巳喜男）『張込み』（一九五八年野村芳太郎）『女が階段を上る時』（一九六〇年成瀬巳喜男）『名もなく貧しく美しく』（一九六一年松山善三）『乱れる』（一九六四年成瀬巳喜男）『六條ゆきやま紬』（一九六五年松山善三）『続・名もなく貧しく美しく 父と子』（一九六七年松山善三）。当日一般千四百円。上映時間など詳細は同館（地下鉄九条⑥出口歩三分、六六五八二・一四一六）へ。

●ギャラリーはたなか「そらん 西桐玉樹熊野新宮の絵展」

十月二十一日（日）まで開催中（十七日は休廊）。十二時～十九時（最終日十七時まで）。磯路二・一一・五（港区役所向かい）。六五七二・五九八七。

●喫茶&ギャラリーハハハハハ 月替わりで

季節感溢れる企画▽十一月は「天満屋手芸店」Ⅱ生地や毛糸、糸、アンティークボタンなどおしゃやな「手芸店」がオープン。十一月二十三日（金祝）にはクリスマスにぴったりのネットクレストップが作れるコーナーも▽七時半～十八時（土祝十一時）、水日休。海岸通一・五・二

てんまや
八天満屋ビル（地下鉄大阪港①出口から西へ歩
五分） ☎六五七六・〇八八〇。

ひとくちPR

（1行11税込1000円）

●何でも書きます、まとめます 手紙・案内・
報告・宣伝・司会等の文案。自分史・社史・団
体史等の聞き書き。新聞・広報・書籍・会報等
の取材・編集。 ☎6571・4636 港新聞・
飯田編集事務所。

読者プレゼント

※いずれもハガキに今月号の感想とプレゼント
名を書いて20日必着で港新聞へ。

●交通科学博物館（ミニミニ案内） 招待券をへ
ア2組に。

●関西フィル「第243回定期演奏会」（ミニミ
ニ案内）招待券をへア1組に。

●弁天シネマ倶楽部『ローマの休日』（ミニミニ
案内）招待券をへア2組に。

●シネ・ヌーヴォー「追悼特集 女優・高峰秀子
アンコール」（ミニミニ案内）招待券をへア2組に。

●あながいおまる一座「花は野にあるように」
（演劇ガイド）招待券をへア2組に。

歴史

平和のため



語り継ごう

今月の語り部

せんが まりこ
千賀 万里子さん

79歳（港晴在住） ⑤



今月は、第二次大戦終結時に家族と共に北朝
鮮から引き揚げ、戦後も数々の苦難を乗り越え
て生きてこられた千賀万里子さん（七九）（港晴
せんが まりこ）

在住に、その過酷な体験と平和への思いを語
って頂きました。

北朝鮮でセレブな生活

敗戦で暗転、収容所に8カ月

私は昭和七（一九三二）年十一月、今の北朝

鮮の平壤の近くに生まれました。朝鮮の十一

月はとても寒く、近くに病院などなかったの

で、産婆さんのお世話になったようでした。ラジオ

で万里の長城のニュースが流れていたのを

父が聞いて「万里子」と名付けたそうです。八

人兄弟姉妹の第六子（次女）でした。

◆やさしかった父母のもとで

父・岩田安治は明治二十七（一八九四）年、

三重県四日市市に国鉄職員の息子として生まれ

ましたが、七歳で母を亡くし、苦学して明治大

学へ進みました。大学を卒業して三菱重鋳業に

就職。結婚してすぐに北朝鮮へ渡り、鉾山長の

職に就きました。

その父は、今の親のように「勉強しろ、勉強
しろ」とやかましく言うのでもなく、また子育

てを母親任せにするのでもなく、「女の子は女らしく、男の子は男らしく」と大らかな愛情をもつて私たちを見守ってくれたように思います。

一方、母・芳子よしこは明治二十九年（二八九六）年、三重県に代々の歯科医の娘として生まれ、厳しく躾けられたせいでしょう、常に父を立て、口ごたえする姿など見たことがありませんでした。手先が器用で、寒い朝、私が「手袋がない」と泣きながら登校し、帰ってきたらちゃんと編んでくれていた、ということもありました。

そんな父母のもと、私たち子供は夏休みに父の里・四日市へ帰るなど、日本と朝鮮を往たり来たりいの生活でした。私は六歳の頃、肺炎に罹かかって死にかけ、入院したので、一年遅れで四日市の小学校に入学、三年生から朝鮮の学校に通いました。

◆戦争を背景に

ところで、この朝鮮は明治四十三（一九一〇）年に日本に併合されたので、私が生まれた時には既に日本の領土になっていました。そして私が四歳の時、昭和十二（一九三七）年七月には中国と戦争が始まり、さらに九歳の時、昭和十

六（一九四一）年十二月にはアメリカやイギリスなどとも戦争になりました。

私が生まれる前の昭和六（一九三一）年、

満州事変に参加したという近所のおじさんが、「日本の軍隊は人を殺すなんて何でもなかった娘さんが狂ったように頭を下げているのに悪いこと（たぶん強姦ごうかん）をして殺した。その娘さんが夜、頭の上に立っていた」と苦しげに話していたのを今も思い出します。

◆激しかった貧富の差

そんな時代背景の中、私たち家族は日本人集落の中の三菱重鋳業の社宅を二、三度転居しながら暮らしました。社宅は一戸建てで、幾つもの部屋があり、掃除や風呂焚きなど家の用事はみな現地のボーイさんと女中さんがやってくれ、母は「奥様、奥様」と呼ばれながら、テニスや玉突きなどを楽しんでいました。今で言う「セレブ」な暮らしでした。

その一方、少し離れた所で粗末な土塀囲いの家に住む現地の人たちの生活は、ひどく貧しいものでした。北朝鮮では鉄が採れたので、日本の企業が現地の人たちを人夫として劣悪な労働

←北朝鮮で何不自由なく暮らしていた昭和15年頃の家族写真（左端が8歳位の私）



条件で働かせていたのです。そんな貧富の差の中でも親が無理してお金を出し、日本人学校へ通ってくる朝鮮の子が、一学級（三、四十人に一人か二人はいました）。

◆厳しかった北朝鮮の冬

また、北朝鮮の冬はとても厳しく、零下三十度にもなるので、二重窓やオンドルなどの防寒・暖房設備は必須でした。近くの池には厚さ一メートルの氷が張り、スケートを楽しむことができました。トイレでは大便が下へ落ちるまでに

凍^{こお}ってカチカチの山ができ、それを現地の使用人が処理してくれました。

そんな中、兄三人は海軍や陸軍に入隊して戦地^{おもむ}へ赴いたものの、残った私たち七人（両親と子供五人）の上には空襲もなく、たまにB29が上空を通過するのを見上げたり、竹槍^{たけやり}などを使った軍事訓練に参加したりはしたものの、戦争というものをほとんど意識しない生活が終戦まで続きました。

◆家荒らされ神社は火の海

ところが昭和二十（一九四五）年八月十五日の正午近く、私たち児童は校庭に集められ、地面に頭をつけて天皇陛下^{へいか}の玉音放送を聴かされました。「日本は戦争に敗けたのです」ということで、先生の指示ですぐにランドセルを背負って家に帰りました。とても暑い日だったのを覚えています。

その晩、家族は憲兵から「とにかく家から出なさい」と言われて広い所（収容所）に入れられました。六年生で十三歳だった私は、一体何が起ったのか、さっぱり分かりませんでした。その翌日には憲兵から「今のうちに必要な物

を取りに帰りなさい」と言われ、家族で急いで家に戻ってみると、家中は現地の人たちの手で目茶目茶^{めぢやめぢや}に荒らされ、わずかな着物類を除き、ミシン、ラジオ、カメラ、電蓄^{でんちく}（ステレオ）などめぼしい家財^{かさい}は何一つ残っていませんでした。また神社という神社には火が放たれ、火の海のようにでした。

◆凄まじかった朝鮮人の復讐

加えて、「今までよくもワシらを奴隷^{どれい}にしてくれたな」と言わんばかりの朝鮮の人たちの復讐^{ふくしゅう}ぶりは凄まじく、特に要職^{すゐ}に就いていた日本人には容赦^{ようしや}がありませんでした。贅沢^{ぜいたく}な暮らしぶりが目立っていた母もその標的になり、「俺たちが奪おうと狙^{ねら}っていた高価な」ラジオやミシンを売っただろ」と捕まえられ、鞭^{むち}でしかれました。そのまま放っておけば恐らく死んでいたことでしょう。が、父と憲兵が助けに向かい、お金を払うなどして彼らの怒りを鎮^{しず}め、何とか母の命を救うことができました。

天国から地獄とはまさにこのことでした。が、こうなることを憲兵などは知っていたらしく、一年前には私たち家族に「岩田さん、日本は負

ける。今のうちに日本へ帰りなさい」と忠告してくれていたそうです。

ともあれ、三菱鉱山の日本人社員と家族、約二千人の収容所生活が始まりました。その中で特に怖^{こわ}かったのは、「若い女はロスケ（ソ連人の蔑称^{べつしょう}）に強姦^{せうかん}される」という噂^{うわさ}でした。それで、母やまだ十三歳の私、五歳の妹はともかく、女学生で十八歳だった姉は坊主頭^{ぼうずあたま}になって女性であることをカムフラージュし、床^{ゆか}の下に隠れ場所を作ってもらって、ソ連兵が来るとそこへ隠れたりしていました。

◆決死の脱出行へ

とにかく収容所からは一歩も外へ出られず、何を食べていたのかもよく覚えていませんが、そんな生活が翌昭和二十一（一九四六）年四月半ばまで約八カ月続きました。そしていよいよ故国^{ここく}日本への帰国の旅が始まったのです。いわゆる「三十八度線越え」で、もしソ連軍に見つかれば「銃殺かシベリア送り」と言われていた危険極^{きく}まりない脱出行^{だつこう}でした。

（つづく）